

大学院 学生便覧・シラバス

令和8年度

福岡看護大学大学院看護学研究科

【 修士課程 看護学専攻 】

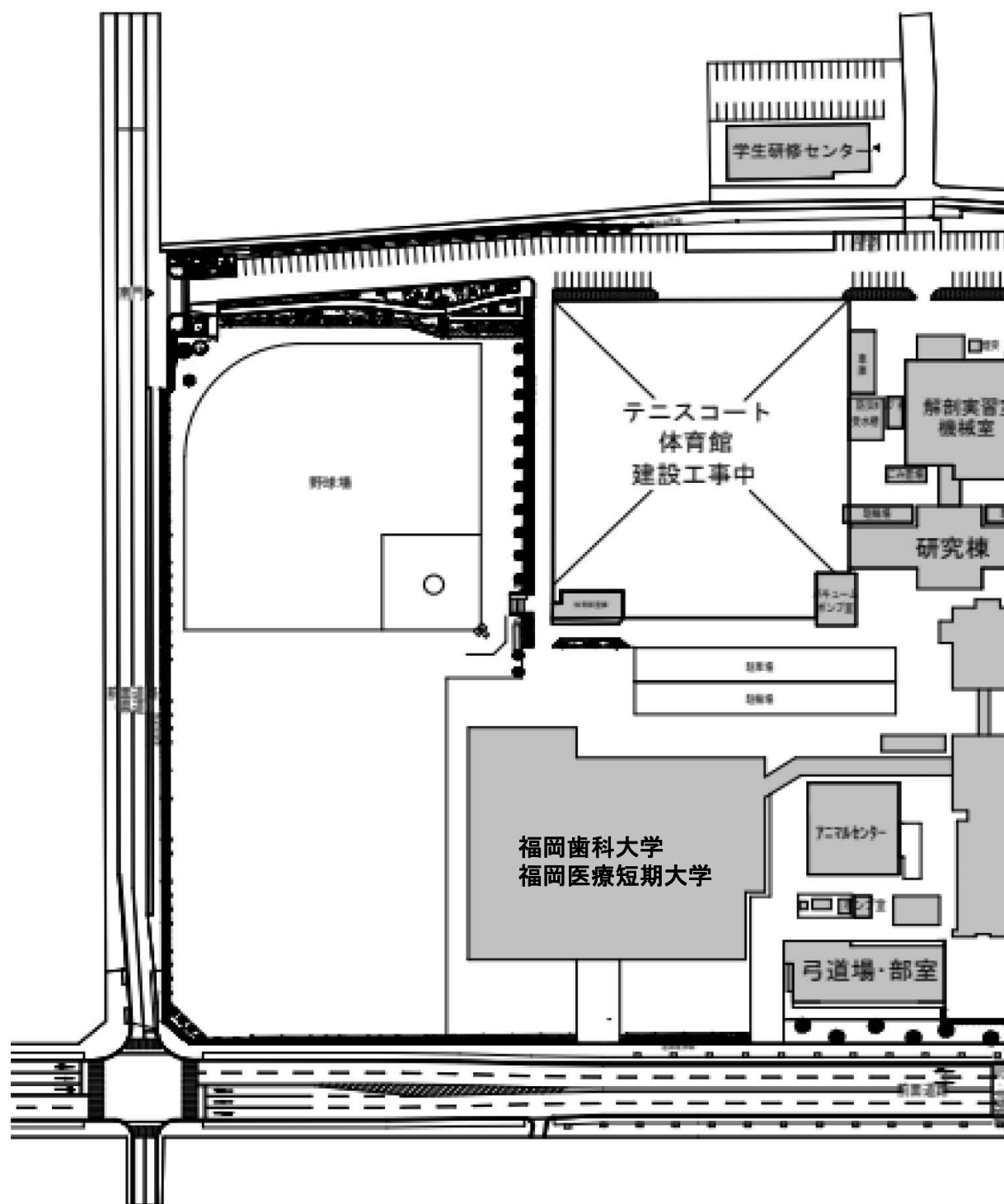


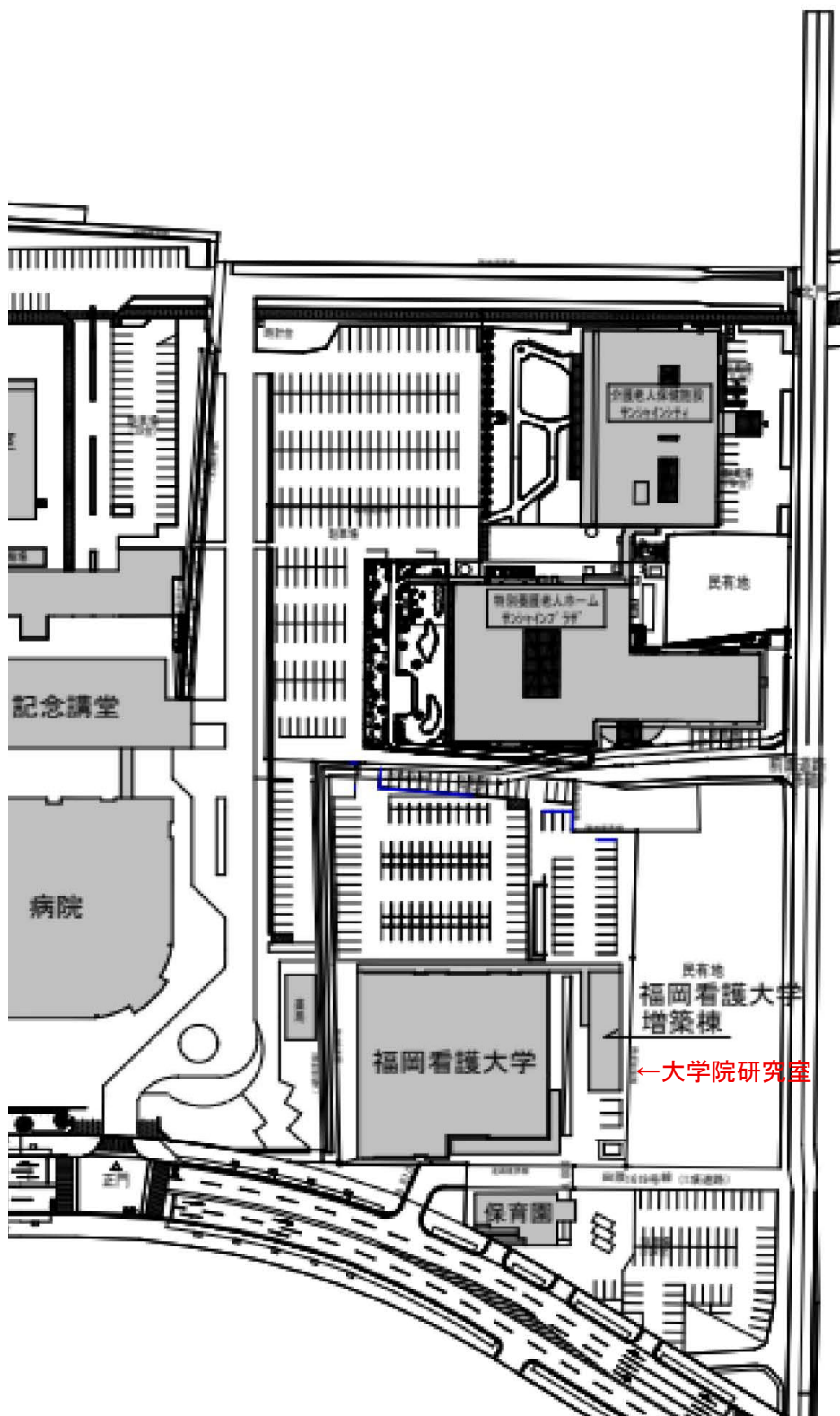
I	教育理念・教育目的・教育目標	
1.	建学の精神	1
2.	教育の目的	1
3.	人材養成等教育研究上の目的	1
4.	カリキュラム・ポリシー	1
5.	ディプロマ・ポリシー	2
II	教育課程	
1.	教育課程	3
2.	課程修了の要件	5
3.	修業年限と在学年数	5
III	研究科組織	6
IV	大学院学年暦	7
V	履修の手引き	
1.	学期、授業時間	8
2.	履修申請手続き	8
3.	履修にあたっての留意事項	8
4.	成績評価方法	9
5.	授業等に関する連絡	9
6.	学位論文提出までの手続き	10
7.	学位論文の審査の方法	12
8.	学位論文発表会	12
9.	教育課程の修了	13
VI	学生生活	
1.	事務組織（学生関係分）	14
2.	学生窓口の受付時間	14
3.	学生掲示版・メールシステム（大学からの連絡）	14
4.	学籍番号	15
5.	学生証	15
6.	各種届・願出	15
7.	各種証明書	15
8.	大学への入館方法	15
9.	大学院研究室	15
10.	図書館	16
11.	日本学生支援機構奨学金制度	19
12.	学校法人福岡学園ハラスメント防止ガイドライン	19
13.	個人情報保護について	24
14.	ソーシャルメディア（SNS）利用に関わるトラブルについて	24
15.	学生教育研究災害傷害保険及び学研災付帯賠償責任保険への加入	25
16.	授業の休講・補講について	25

VII	新型コロナウイルス拡大防止のために	28
VIII	地震発生時の対応（安全・避難方法）	
1.	地震発生時の避難の心得	29
2.	安否等の連絡	29
IX	各種届出・証明書発行について	31
X	学則・諸規程・諸規則集	34
	・福岡看護大学大学院学則	
	・福岡看護大学大学院履修規程	
	・福岡看護大学学位規程	
	・福岡看護大学学位規程施行規則	
	・福岡看護大学大学院ティーチング・アシスタント規程	
	・福岡看護大学大学院長期履修学生規則	
	・福岡看護大学各種証明書の交付手数料及び受験料に関する規則	
	・福岡看護大学奨学規程	
	・学校法人福岡学園学生納付金滞納者に対する納付の催告、督促及び処分に関する規則	
	・福岡看護大学学生証取扱要項	
	・福岡歯科大学・福岡医療短期大学図書館及び福岡看護大学図書館利用規則	
	・学校法人福岡学園個人情報保護規程	
	・学校法人福岡学園倫理審査委員会規則	
XI	配置図等	58
XII	シラバス	62
	・健康支援特論	P 63
	・対人関係特論	P 66
	・看護研究方法	P 68
	・口腔医療看護特論	P 71
	・看護倫理特論	P 74
	・看護教育特論	P 77
	・看護管理特論	P 80
	・病態生理特論	P 83
	・看護援助特論	P 86
	・看護・口腔医療連携特論	P 88
	・看護病態特論	P 91
	・成人看護特論	P 93
	・高齢者看護特論	P 96
	・精神看護特論	P 98
	・母子看護特論	P101
	・公衆衛生看護特論	P105
	・看護特別研究	P108

XI 配置図等

福岡学園マップ





福岡看護大学配置図

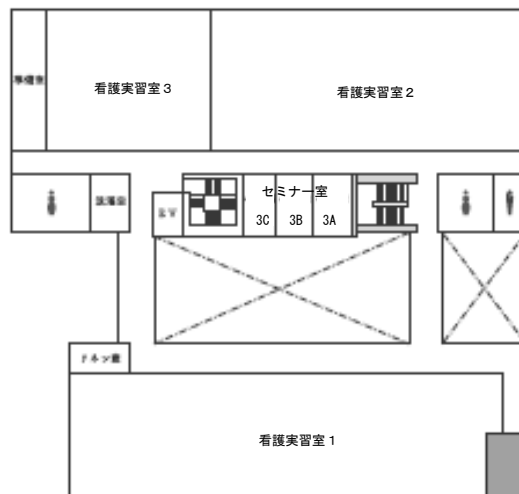
1F



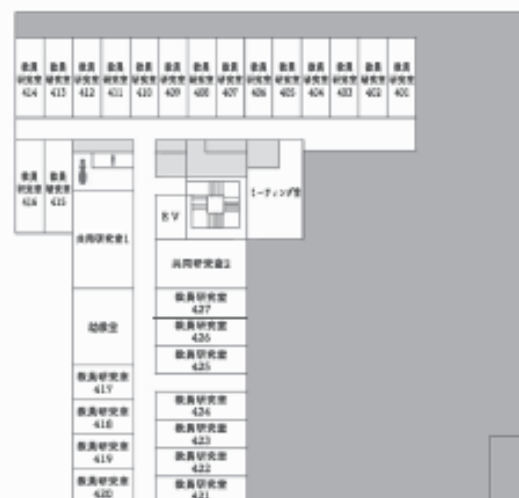
2F



3F



4F



XII シラバス

科目名（科目NO.）	健康支援特論（MN011001）					時間数	30 時間		
学年	1	科目区分	必修	単位数	2	授業形態	講義	開講期	前期
評価責任者	秋好久美子								
担当教員名	秋好久美子、吉田大悟、晴佐久悟、岩本利恵								
【授業の概要】	生活の質を高め、最適な生活（well-being）を送るための健康支援のあり方についての理解を深めるとともに、生活者の視点に立った健康づくりや健康支援についての理解を深める。								
【到達目標】	1. 対象者に関する医学的知識、well-beingを基盤として健康支援のあり方を探求する。 2. 慢性疾患、終末期に関するwell-beingを基盤とした健康支援のあり方を探求する。 3. 医学的知識を統合した地域の健康づくりと、生活者の視点に立ったQOL向上を目指す取り組みについて探求する。 4. 口腔を含む医学的知識を統合した健康支援の方法を探求する。								
【授業の方法】	講義を受け、文献を通して批判的思考による発表およびディスカッションを行い、レポートを提出する。								
【ディプロマ・ポリシーとの関連】 □に✓する ※複数選択可	☒ 1. well-beingを基盤にした健康支援と口腔に対する看護実践の質的向上に貢献するケアを提案・推進する能力を身に付けている。 ☒ 2. 看護活動に関する最新の知見や動向に関する理解と看護活動における俯瞰的なものの見方や実践的な応用能力を身に付けている。 ☐ 3. 看護の対象の特性や看護の場面に応じた現象を科学的に探究し、臨床教育・継続教育で実践するための高度な専門知識と応用能力を身に付けている。 ☐ 4. 看護実践の改善・開発に必要となる研究マインドと、医療看護を対象とする看護研究の遂行能力を身に付けている。								
【授業時間外の学習】 （事前・事後学習）	毎回の講義内容に関連した内容を事前学習し、健康支援に関連する事例やプレゼンテーションに関する準備を行う。事後は、自己の学習内容と課題を明らかにし、論文作成およびその後の看護に生かせるポートフォリオとしてまとめる。								
【課題に対するフィードバック】	レポートおよび成果物へのコメントを返却する。								
【評価方法】	レポート30%、プレゼンテーション50%、授業中の発言、ディスカッション時の積極性など20%								
【教科書】	1. 水田祥代・窪田恵子監修 「授業・演習、臨床・在宅現場でも、すぐに使える！看護で教える最新口腔ケア」、大道学館出版部、福岡。 2. ヘルスプロモーション WHO:バンコク憲章21世紀の健康戦略シリーズ、島内憲夫（訳）。 3. 国民衛生の動向、一般財団法人厚生労働統計協会。								
【参考図書】	1. 一般社団法人口腔ケア学会編集「口腔ケア基礎知識」、永末書店、京都市。 2. Hasuie A, Iguchi S, Suzuki D, et al: Systematic review and assessment of systematic reviews examining the effect of periodontal treatment on glycemic control in patients with diabetes. Med Oral Patol Oral Cir Bucal. 22(2), e167-e176, 2017. 3. Feigin & Cherry ed: Textbook of Pediatric Infectious Diseases 6th ed. 4. Plotkin's Vaccines 7th ed. 5. 実践 ヘルスプロモーション、著:ローレンス. W. グリーン. /マーシャルW. クロイター, 訳: 神馬征峰, 医学書院。								

【授業計画】

回数	担当教員	授業内容	事前学習	事後学習
1	秋好久美子	ユニット1：循環器疾患の健康支援1 G I O：循環器疾患の診断・治療、治癒を促進するための健康支援について説明できる。 S B O s：循環器疾患の診断・治療、治癒と Q O Lを維持向上させる療養生活を支援する看護について意見を述べることができる。 (方法：講義、抄読会、討議)	テーマに即した資料、提示した文献を読み、討論できるように意見をまとめておく。	リアクションペーパーにまとめる。
2	秋好久美子	ユニット1：循環器疾患の健康支援2 G I O：循環器疾患の診断・治療、治癒を促進するための健康支援について説明できる。 S B O s：循環器疾患と日常生活健康支援に関する文献を読み、批判的に評価し、討議できる。 (方法：講義、抄読会、討議)	テーマに即した資料、提示した文献を読み、討論できるように意見をまとめておく。	リアクションペーパーにまとめる。
3	秋好久美子	ユニット1：循環器疾患の健康支援3 G I O：循環器疾患の診断・治療、治癒を促進するための健康支援について説明できる。 S B O s： 1) 循環器疾患の診断・治療、治癒と well-beingを維持向上させる療養生活を支援する方法について意見を述べることができる。 2) 循環器疾患と日常生活健康支援に関する文献を読み、well-beingを支える医療や看護のあり方の課題を明らかにできる。 (方法：講義、抄読会、討議)	テーマに即した資料、提示した文献を読み、討論できるように意見をまとめておく。	リアクションペーパーにまとめる。
4	秋好久美子	ユニット2：循環器疾患と口腔健康支援1 G I O：循環器疾患を持つ対象の口腔の健康を通して対象のQOLを維持向上させる健康支援について説明できる。 S B O s：口腔の健康と循環器病の関連について説明できる。 (方法：講義、抄読会、討議)	テーマに即した資料、文献を読み、討論できるように意見をまとめておく。	授業での討議を振り返り、自己の課題を明確にする。
5	秋好久美子	ユニット2：循環器疾患と口腔健康支援1 G I O：循環器疾患を持つ対象の口腔の健康を通して対象のQOLを維持向上させる健康支援について説明できる。 S B O s：循環器疾患と口腔に関連した日常生活支援に関する文献を読み、批判的に評価し、討論できる。 (方法：講義、抄読会、討議)	テーマに即した資料、文献を読み、討論できるように意見をまとめておく。	授業での討議を振り返り、自己の課題を明確にする。
6	岩本利恵	ユニット3：慢性疾患におけるwell-beingを促進する支援 G I O：難病を持つ対象者および家族のwell-beingを促進する健康支援について説明できる。 S B O s： 1) 事例を通して、難病を持つ対象者および家族のwell-beingについて考えることができる。 2) 難病を持つ対象者および家族のwell-beingを促進するための支援について説明することができる。 (方法：講義、討議)	テーマに即した資料、文献を読み、討論できるように意見をまとめておく。	授業での討議を振り返り、自己の課題を明確にする。
7	岩本利恵	ユニット3：慢性疾患におけるwell-beingを促進する支援 G I O：がんとともに生きる人とその家族を全人的に理解しwell-beingを促進する健康支援について説明できる。 S B O s： 1) 文献から、がんとともに生きる人とその家族の経験を理解し、全人的な視点での看護について説明できる。 2) がんとともに生きる人およびその家族のwell-beingを促進するための支援について説明することができる。 (方法：講義、討議)	授業で取り上げるテーマに即して、文献、書籍を読み、討議できるように疑問点をまとめておく。	授業での討議を振り返り、自己の課題を明確にする。
8	岩本利恵	ユニット4：終末期におけるwell-beingを促進する支援 G I O：終末期にある人および家族のスピリチュアリティを理解した全人的看護について理解し、well-beingを促進する健康支援について説明できる。 S B O s： 1) 終末期におけるwell-beingについて、文献から討議できる。 2) 終末期におけるwell-beingを促進する健康支援について、討議し意見をまとめることができる。 (方法：講義、討議)	授業で取り上げるテーマに即して、文献、書籍を読み、討議できるように疑問点をまとめておく。	授業での討議を振り返り、自己の課題を明確にする。

【授業計画】

回数	担当教員	授業内容	事前学習	事後学習
9	岩本利恵	ユニット5：プラネタリーヘルスとwell-beingを促進する支援 G I O：プラネタリーヘルスの概要、社会情勢等を理解し、well-being を促進する支援について説明できる。 S B O s： 1) プラネタリーヘルスの概要について文献をもとに調べ説明することができる。 2) プラネタリーヘルスとwell-beingについて、どのような取り組みが看護として、社会の一員として必要か討議し、考えをまとめることができる。 (方法：講義、討議)	授業で取り上げるテーマに即して、文献、書籍を読み、討議できるように疑問点をまとめておく。	授業での討議を振り返り、自己の課題を明確にする。
10・11	吉田大悟	ユニット6：地域の健康づくり1 G I O：地域での健康支援実践と住民が抱えるニーズについて討議し、健康支援を支える社会保険制度の課題について説明できる。 S B O s： 1) 地域における健康づくりの事例を通して、住民の生活を支える社会保障制度を説明し、健康支援を支える社会保険制度の課題について考えをまとめることができる。 2) 社会保障制度の課題を含め、地域での健康づくり活動とその支援策について意見をまとめ、考察できる。 (方法：講義・論文抄読・討議)	テキスト・テーマに即した文献を読む。	リアクションペーパーにまとめる。
12	吉田大悟	ユニット6：地域の健康づくり2 G I O：医学的知識を統合した地域における口腔保健の推進を目的とした多職種との連携について説明できる。 S B O s： 1) 地域の口腔歯科保健の向上と多職種連携の重要性について、文献をもとに考察できる。 2) 地域の口腔歯科保健計画の文献を読み、討議を通して自分の考えをまとめることができる。 (方法：講義・討議)	テキスト・テーマに即した文献を読む。	リアクションペーパーにまとめる。
13	晴佐久悟	ユニット7：歯周病が全身の健康に影響を及ぼすというエビデンス G I O：歯周病が全身の健康に影響を及ぼすというエビデンスについて説明できる。 S B O s： 1) 歯周病の疫学について説明できる。 2) 歯周病発生のメカニズムを説明できる。 3) 歯周病が全身の健康、QOLに影響を与えると報告されているシステムティックレビューを読み、内容を説明できる。 (方法：講義、討議)	授業で取り上げるテーマに即して、文献、書籍を読み、討議できるように疑問点をまとめておく。	授業での討議を振り返り、自己の課題を明確にする。
14	晴佐久悟	ユニット8：エビデンスに基づいた口腔ケア1 G I O：エビデンスに基づいた最新の器質的口腔ケア、機能的口腔ケア支援法について説明できる。 S B O s： 1) 口腔ケアに関する最新の書籍、研究論文を検索し、入手することができる。 2) 口腔ケアに関する最新の書籍、研究論文を読み、多職種連携の中で看護師が実施することができる支援法を説明し、討議できる。 (方法：講義、討議)	授業で取り上げるテーマに即して、文献、書籍を読み、討議できるように疑問点をまとめておく。	授業での討議を振り返り、自己の課題を明確にする。
15	晴佐久悟	ユニット8：エビデンスに基づいた口腔ケア2 G I O：事業所、地域での歯科保健活動における口腔ケア支援法について説明できる。 S B O s： 1) 事業所で実施されている歯周病予防事業についての書籍、報告書、論文を読み、口腔ケア支援の内容について説明することができる。 2) 地域訪問歯科診療に関する書籍、書籍、報告書、論文を読み、口腔ケア支援の内容について説明することができる。 3) 口腔ケアによるオーラルフレイル、誤嚥性肺炎等による口腔内細菌による感染予防について説明することができる。 (方法：講義、討議)	授業で取り上げるテーマに即して、文献、書籍を読み、討議できるように疑問点をまとめておく。	授業での討議を振り返り、自己の課題を明確にする。

科目名（科目NO.）	対人関係特論（MN011002）					時間数	30 時間		
学年	1	科目区分	必修	単位数	2	授業形態	講義	開講期	後期
評価責任者	宮園真美								
担当教員名	宮園真美、門司真由美、原やよい、青野広子								
【授業の概要】	看護の対象となる人々との人間関係の特徴について理解を深めるとともに、患者やその家族との信頼関係を構築するためのコミュニケーションに関する知識や技法についての理解を深める。								
【到達目標】	1. 看護実践の基盤となる人間関係理論や人間関係技法を基に概観し、患者や家族、専門職連携における人間関係を発展させる方法について探求する。 2. 患者や家族との援助的人間関係構築に影響を及ぼす対人不安について、その実態と改善方法について探求する。 3. 患者とのコミュニケーションに対する課題について、リフレクションを通して考察し、援助的人間関係の構築に向けた自己教育力を育成する方法について探求する。								
【授業の方法】	講義、文献を通して批判的思考による発表およびディスカッションを行い、レポートを提出する。								
【ディプロマ・ポリシーとの関連】 □に✓する ※複数選択可	☒ 1. well-being を基盤にした健康支援と口腔に対する看護実践の質的向上に貢献するケアを提案・推進する能力を身に付けている。 ☐ 2. 看護活動に関する最新の知見や動向に関する理解と看護活動における俯瞰的なものの見方や実践的な応用能力を身に付けている。 ☒ 3. 看護の対象の特性や看護の場面に応じた現象を科学的に探究し、臨床教育・継続教育で実践するための高度な専門知識と応用能力を身に付けている。 ☐ 4. 看護実践の改善・開発に必要となる研究マインドと、医療看護を対象とする看護研究の遂行能力を身に付けている。								
【授業時間外の学習】 （事前・事後学習）	毎回の講義内容に関連した内容を事前学習し、看護の対象者や保健・医療・福祉等の関係者との人間関係形成に関連する事例やプレゼンテーションに関する準備を行う。事後は、自己の学習内容と課題を明らかにし、論文作成およびその後の看護に生かせるポートフォリオとしてまとめる。								
【課題に対するフィードバック】	レポートおよび成果物へのコメントを返却する。								
【評価方法】	レポート30%、プレゼンテーション50%、授業中の発言、ディスカッション時の積極性など20%								
【教科書】	適宜、文献・資料を配布する。								
【参考図書】	1. ミルトン・メイヤロフ著 田村真・向野宣之訳、ケアの本質—生きることの意味—、ゆみる出版。 2. H. E. PEPLAU 著、南裕子他5名、ペプロウ人間関係の看護論、医学書院、2006。 3. World Health Organization (2010) Framework for action on interprofessional education and collaborative practice. (https://www.who.int/hrh/resources/framework_action/en/) accessed 2020/08/05 4. 田村由美、新しいチーム医療 改訂版 — 看護とインタープロフェッショナル・ワーク入門、看護の科学社、2018。 5. 藤井博之：臨床現場でIPを実践し学ぶ（ラーニングシリーズ IP（インタープロフェッショナル）/保健・医療・福祉専門職の連携教育・実践）、協同医書出版社、2018。 6. 松尾太加志、コミュニケーションの心理学—認知心理学・社会心理学・認知工学からのアプローチ、ナカニシヤ出版、1999。								

【授業計画】

回数	担当教員	授業内容	事前学習	事後学習
1 ・ 2 ・ 3	宮園真美 原やよい	ユニット1：人間関係形成過程 G I O：看護における人間関係形成過程について応用的実践に向けて説明できる。 S B O s： 1) 看護実践の基盤となるコミュニケーション技法について説明できる。 2) 人間関係理論を精読し、主要概念、理論の限界について説明できる。 3) 看護実践を振り返り、人間関係理論に関する書籍・文献を精読し、議論を通して応用的な人間関係形成過程の課題を明らかにする。 (方法：講義、討議)	授業で取り上げるテーマ(コミュニケーション技法・人間関係理論など)に即して、文献、書籍を読み、討議できるように疑問点をまとめておく。	授業での討議を振り返り、自己の課題を明確にする。
4 ・ 5	宮園真美 原やよい	ユニット2：人間関係理論の実践への活用 G I O：人間関係理論の実践への活用について説明できる。 S B O s： 1) 患者や家族、専門職連携における対人関係を振り返り、気になる事例について人間関係理論をもとに分析し課題を明らかにする。 2) 看護理論の実践への活用と限界について討議・提案することができる。 (方法：講義、討議)	授業で取り上げるテーマに即して、文献、書籍を読み、討議できるように疑問点をまとめておく。	授業での討議を振り返り、自己の課題を明確にする。
6 ・ 7	宮園真美 青野広子	ユニット3：患者や家族との援助的人間関係構築に影響を及ぼす対人不安 G I O：患者や家族との援助的人間関係構築に影響を及ぼす対人不安について課題を明らかにする。 S B O s： 1) コミュニケーション障害となる対人不安の形成過程について自分の考えを述べることができる。 2) 患者や家族、看護師が抱く対人不安が援助的人間関係に及ぼす影響について探求する。 (方法：講義、討議)	授業で取り上げるテーマに即して、文献、書籍を読み、討議できるように疑問点をまとめておく。	授業での討議を振り返り、自己の課題を明確にする。
8 ・ 9 ・ 10	宮園真美 青野広子	ユニット4：対人不安が影響する援助的対人関係の改善方法 G I O：対人不安が影響する援助的対人関係の改善方法について説明できる。 S B O s： 1) 対人不安の改善方法について、先行研究をもとに議論を通して課題を明らかにする。 2) 患者や家族、看護師が抱く対人不安が影響する援助的対人関係の改善方法について討議・提案できる。 (方法：講義、討議)	授業で取り上げるテーマに即して、文献、書籍を読み、討議できるように疑問点をまとめておく。	授業での討議を振り返り、自己の課題を明確にする。
11 ・ 12 ・ 13 ・ 14 ・ 15	門司真由美	ユニット5：患者との援助的人間関係の構築に関する学習 G I O：リフレクションを通して、自己の課題について討論を重ね、課題を明らかにできる。 S B O s： 1) 経験学習に基づき、患者との援助的人間関係の構築に関する失敗経験について、プロセスレコードを活用してリフレクションを行い、自己の課題に関して討論し、説明することができる。 2) 患者との援助的人間関係における自己の課題について自身の考えを述べるすることができる。 3) 患者との援助的人間関係の構築に関する自己の改善策・支援法について討議し、応用的実践に向けて課題を明らかにできる。 (方法：講義、演習、発表、討議)	自己の教育経験を振り返り、授業で取り上げるテーマに即して、関連する文献、書籍を読み、①自身の考えをまとめる、②発表の準備を行う。また、③他者と討議できるよう準備を行う。	授業での発表、および討議を振り返り、自己の課題を明確にする。

科目名（科目NO.）	看護研究方法（MN011005）					時間数	60時間		
学年	1	科目区分	必修	単位数	4	授業形態	講義	開講期	通年
評価責任者	飯野英親								
担当教員名	飯野英親、晴佐久悟、荒川満枝、松尾和枝、吉田大悟								
【授業の概要】	看護師が専門的な知識と技術の向上や開発を図り、看護師として高度な看護実践の展開やより良い看護を探究するための課題解決に必要なとなる研究活動に関する能力を高めるとともに、看護研究における倫理の必要性和倫理的配慮や研究者倫理についての理解を深めることを目的とする。 具体的には、看護実践を質的又は量的側面から扱う研究活動に必要なとなる文献研究・事例研究・実験研究から、面接法、参加観察法、質問紙法、データ分析法など、研究デザインや研究手法について学修する。合わせて、対象者の人権擁護や研究不正の回避など、看護研究における倫理について学修する。								
【到達目標】	1. 基本的な看護研究方法と、方法に合わせた研究プロセスが説明できる。 2. 看護研究者の責任や使命、倫理的配慮について説明できる。 3. 看護系文献のクリティークの方法について説明できる。								
【授業の方法】	講義、グループワーク、討議を中心に、発表を行う。								
【ディプロマ・ポリシーとの関連】 □に✓する ※複数選択可	□ 1. well-being を基盤にした健康支援と口腔に対する看護実践の質的向上に貢献するケアを提案・推進する能力を身に付けている。 □ 2. 看護活動に関する最新の知見や動向に関する理解と看護活動における俯瞰的なものの見方や実践的な応用能力を身に付けている。 □ 3. 看護の対象の特性や看護の場面に応じた現象を科学的に探究し、臨床教育・継続教育で実践するための高度な専門知識と応用能力を身に付けている。 □ 4. 看護実践の改善・開発に必要なとなる研究マインドと、医療看護を対象とする看護研究の遂行能力を身に付けている。								
【授業時間外の学習】 （事前・事後学習）	自身の専門領域における研究論文について、研究方法の異なる論文を複数準備し精読しておくこと。								
【課題に対するフィードバック】	レポートにコメントをつけて返却する。								
【評価方法】	授業内での取り組み（ディスカッションへの参加度を含む）（20%）、プレゼンテーション（30%）、課題レポート（50%）								
【教科書】	1. 黒田裕子、中木高夫、逸見功（監訳）（2015）、パーンズ&グローブ 看護研究入門原著第7版：評価・統合・エビデンスの生成、Elsevier Japan. 2. 山川みやえ・牧本清子（編著）よくわかる看護研究論文のクリティーク、日本看護協会出版会.								
【参考図書】	1. 坂下玲子ほか、看護研究、医学書院、2016. 2. Denise F Polit Cheryl Tatano Beck, Nursing Research: Generating and Assessing Evidence for Nursing, Practice Lippincott Williams & Wilkins, 2007. その他の参考文献は、授業中に適宜、紹介する。								

【授業計画】

回数	担当教員	授業内容	事前学習	事後学習
1 ・ 2	飯野英親	ユニット1：授業概要、授業課題、研究倫理 G I O：看護研究方法の概要、本科目の学修内容を理解することを通して、自己の関心のある研究テーマに対する研究のアプローチ方法について説明できる。人を対象とした医学系研究に関して、研究のための倫理的配慮、研究者としての責任、論文公表時の使命について説明できる。 S B O s： 1) 論文のクリティークとそのまとめ方について説明できる。 2) 人を対象とする医学系研究に関する倫理指針における、目的、基本方針、研究計画書、インフォームドコンセント、個人情報保護、守秘義務、データ収集と保管・管理等について、留意点を説明できる。 3) 研究者が論文を公表する責務、研究代表者の責務について、留意事項を説明できる。 4) 研究不正行為の内容とその防止策、論文公表にあたってのオーサリング、信頼性・再現性の保証、利益相反、著作権、知的財産権について討論し、説明できる。 (方法：講義、グループワーク、討論)	事前配布資料を読んでおく。	特になし
3 ・ 4	飯野英親	ユニット3：修士論文の書き方と倫理審査 G I O：本学が定める修士論文の審査基準に基づく修士論文の書き方を理解する。また、本学園の研究倫理審査の申請・審査プロセスを含む留意点と研究における国際ルールについて説明できる。 S B O s： 1) 修士論文の構成、書き方上の留意点について説明できる。 2) 研究倫理審査の手続き、利益相反事項について具体例を説明できる。 3) CONSORT声明、コクラン計画、システマティック・レビュー、メタアナリシス、SQUIRE ガイドラインについて説明できる。 (方法：講義、討論)	人を対象とする医学系研究に関する倫理指針を読み、討議できるように疑問点をまとめておく。	授業内容を振り返り、リアクションペーパーにまとめる。
5 ・ 6	松尾和枝	ユニット5：質的研究方法1 質的研究方法の概説 修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチ G I O：研究デザインとしての質的研究の適用・手法を説明できる。 修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチで用いる「概念」「カテゴリー」「コード」、コーディング、サンプリング等の理解に基づき、階層的関係づけ、分析方法を理解し、グラウンデッド・セオリー・アプローチの基本について説明できる。 S B O s： 1) 修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチの論文報告を元に、一連の研究プロセス、用語の意味、使われ方について説明できる。 2) 論文をもとに、分析方法の事例の比較とカテゴリーの比較、それによって導かれた結果の意味について説明できる。 (方法：講義、討論)	本学の修士論文の審査基準、倫理審査委員会規則等の資料を読み、討議できるように疑問点をまとめておく。	授業内容を振り返り、リアクションペーパーにまとめる。
7 - 16	吉田大悟	ユニット4：量的研究方法1 調査研究法、調査のプロセスと基本統計 G I O：研究デザインとして量的研究の探索的調査研究の手法について説明できる。 S B O s： 1) 質問紙調査方法の標準的なプロセスについて説明できる。 2) 質問紙調査方法における対象への倫理的配慮の留意点について説明できる。 3) 結果の分析方法として、記述統計的手法、検定について、例題を元の実施できる。 (方法：講義、討論、発表)	例題を元に、統計分析の該当箇所について自己学習し、討議できるように疑問点をまとめておく。	授業内容を振り返り、リアクションペーパーにまとめる。

【授業計画】

回数	担当教員	授業内容	事前学習	事後学習
17 - 24	晴佐久悟	ユニット4：量的研究方法2 研究デザイン（関連検証、因果関係検証、実態調査・因子探索） G I O：研究デザインとして量的研究の因果関係、探索的因子分析の手法について説明できる。 S B O s： 1）大規模調査方法の標準的なプロセスについて説明できる。 2）大規模調査における対象への倫理的配慮の留意点について説明できる。 3）結果の分析方法として、SPSS等の解析ソフトを用いた因子分析法、コレスポンデンス分析等について、例題を元に実施できる。 （方法：講義、討論、発表）	例題を元に、統計分析の該当箇所について自己学習し、討議できるように疑問点をまとめておく。	授業内容を振り返り、リアクションペーパーにまとめる。
25 - 30	荒川満枝	ユニット4：量的研究方法3 量的研究における文献クリティークの方法 G I O：論文クリティークとクリティカル・シンキングを通して量的研究プロセスを学修し、臨床実践における量的研究の論文クリティークの意義を説明できる。 S B O s： 1）量的研究を対象としたクリティークの視点について説明できる。 2）理解しやすいわかりやすい研究結果の見せ方について説明できる。 3）考察に必要な要素を踏まえて、考察のクリティークについて説明できる。 （方法：講義、討論、発表）	クリティークに関する事前学習を行い、指定された量的研究の論文についての論点をまとめておく。	授業内容を振り返り、リアクションペーパーにまとめる。

科目名	口腔医療看護特論 (MN011130)					時間数	30時間		
学年	1	科目区分	必修	単位数	2	授業形態	講義	開講期	通年
評価責任者	晴佐久悟								
担当教員名	晴佐久悟、内藤徹（兼任）								
【授業の概要】	口腔ケアの定義や全身疾患との関連から対象者の状態に応じた口腔ケアの具体的な方法の理解とともに、口腔機能の維持向上が最適な生活（well-being）の向上につながることを理解を深める。								
【到達目標】	1. 看護における口腔ケアの歴史的変遷や口腔ケアの実態に関する理解を深め、口腔ケアを通して対象者のwell-beingを目指した看護実践について探求する。 2. 口腔ケアの定義、オーラルフレイルの概念、オーラルフレイル予防、改善のためのケアと、看護・歯科連携について探求する。 3. 精神的な健康問題を有する対象者に応じた口腔ケアについて探求する。 4. 医学研究における研究資料の収集法、研究デザイン、研究分析法について理解し、研究計画を立案できる。								
【授業の方法】	講義、文献を通して批判的思考による発表およびディスカッションを行い、レポートを提出する。								
【ディプロマ・ポリシーとの関連】 □に✓する ※複数選択可	☒ 1. well-being を基盤にした健康支援と口腔に対する看護実践の質的向上に貢献するケアを提案・推進する能力を身に付けている。 ☐ 2. 看護活動に関する最新の知見や動向に関する理解と看護活動における俯瞰的なものの見方や実践的な応用能力を身に付けている。 ☒ 3. 看護の対象の特性や看護の場面に応じた現象を科学的に探究し、臨床教育・継続教育で実践するための高度な専門知識と応用能力を身に付けている。 ☐ 4. 看護実践の改善・開発に必要なとなる研究マインドと、医療看護を対象とする看護研究の遂行能力を身に付けている。								
【授業時間外の学習】 （事前・事後学習）	毎回の講義内容に関連した内容を事前学習し、口腔医療および看護支援に関連する事例やプレゼンテーションに関する準備を行う。事後は、自己の学習内容と課題を明らかにし、論文作成およびその後の看護に生かせるポートフォリオとしてまとめる。								
【課題に対するフィードバック】	レポートおよび成果物へのコメントを返却する。								
【評価方法】	レポート30%、プレゼンテーション50%、授業中の発言、ディスカッション時の積極性など20%								
【教科書】	水田祥代・窪田恵子監修：授業・演習、臨床・在宅現場でも、すぐに使える！看護で教える最新の口腔ケア，大道学館出版部，2020.2.								
【参考図書】	適宜、文献や資料を配布する。								

【授業計画】

回数	担当教員	授業内容	事前学習	事後学習
1	晴佐久悟	ユニット1：口腔ケアの定義と意義 G I O：口腔ケアの定義について説明できる。 S B O s： 1) 口腔ケアの定義について文献を読み議論を通して説明できる。 2) 看護職が口腔ケアを行う意義について文献を読み議論を通して課題を明らかにする。 3) 多職種連携による口腔ケアの意義について文献を読み議論を通して課題を明らかにする。 (方法：講義、討議)	授業で取り上げるテーマに即して、文献、書籍を読み、討議できるように疑問点をまとめる。	授業での討議を振り返り、自己の課題を明確にする。
2・3	晴佐久悟	ユニット4：口腔疾患の疫学、歯科保健統計 G I O：口腔疾患の疫学、歯科保健統計について説明できる。 S B O s： 1) 口腔疾患の疫学（う蝕、歯周病、口腔癌）を説明できる。 2) 歯科保健統計（現在歯数、歯科保健行動）を説明できる。 (方法：講義、討議)	授業で取り上げるテーマに即して、文献、書籍を読み、討議できるように疑問点をまとめる。	授業での討議を振り返り、自己の課題を明確にする。
4・5	晴佐久悟	ユニット5：口腔の健康と全身の健康との関係、歯科専門家が実施する器質的口腔ケア G I O：口腔の健康が全身の健康と密接な関連性があるエビデンス、歯科医療従事者が実施する器質的口腔ケアについて説明できる。 S B O s： 1) 口腔細菌が口腔疾患、全身疾患へ及ぼすメカニズムについて説明できる。 2) 口腔ケアの誤嚥性肺炎や術後性肺炎への予防効果に関する文献、システマティックレビュー論文を入手し、内容を説明、討議できる。 3) 歯科医療従事者が実施する専門的・器質的口腔ケア法、歯科専門家の口腔ケアの役割、多職種との連携について説明できる。 (方法：講義、討議)	授業で取り上げるテーマに即して、文献、書籍を読み、討議できるように疑問点をまとめる。	授業での討議を振り返り、自己の課題を明確にする。
6	晴佐久悟	ユニット6-①：オーラルフレイル予防のための口腔ケア支援法 G I O：オーラルフレイルの概念、定義について説明できる。 S B O s： 1) 摂食・嚥下機能について説明できる。 2) オーラルフレイルの概念、定義について説明できる。 3) オーラルフレイルとフレイルの関連性が報告されている研究論文を読み、看護師によるオーラルフレイルケア支援の必要性について説明し、討議できる。 (方法：講義、討議)	授業で取り上げるテーマに即して、文献、書籍を読み、討議できるように疑問点をまとめる。	授業での討議を振り返り、自己の課題を明確にする。
7	晴佐久悟	ユニット6-②：オーラルフレイル予防のための口腔ケア支援法 G I O：オーラルフレイルの公衆衛生対策について説明できる。 S B O s： 1) オーラルフレイルのレベル1、2で実施する地域介護予防事業を説明できる。 2) 地域介護予防事業での口腔ケア支援の事例について説明し、討議できる。 (方法：講義、討議)	授業で取り上げるテーマに即して、文献、書籍を読み、討議できるように疑問点をまとめる。	授業での討議を振り返り、自己の課題を明確にする。
8	晴佐久悟	ユニット6-③：オーラルフレイル予防のための口腔ケア支援法 G I O：口腔機能低下症、摂食機能障害の評価法について説明できる。 S B O s： 1) オーラルフレイルのレベル3で実施する口腔機能低下症の評価法を説明し、多職種連携の中で看護師がアセスメントすることができる評価法を討議できる。 2) オーラルフレイルのレベル4で実施する摂食機能障害の評価法を説明できる。 (方法：講義、討議)	授業で取り上げるテーマに即して、文献、書籍を読み、討議できるように疑問点をまとめる。	授業での討議を振り返り、自己の課題を明確にする。

【授業計画】

回数	担当教員	授業内容	事前学習	事後学習
9	晴佐久悟	ユニット6-④：オーラルフレイル予防のための口腔ケア支援法 G I O：口腔機能低下症、摂食機能障害改善における看護師の役割、口腔ケア支援法を説明できる。 S B O s： 1) オーラルフレイルのレベル3で実施する口腔機能低下症改善のための口腔ケア方法を説明できる。 2) オーラルフレイルのレベル4で実施する摂食機能障害の改善法と看護師の役割について説明できる。 (方法：講義、討議)	授業で取り上げるテーマに即して、文献、書籍を読み、討議できるように疑問点をまとめておく。	授業での討議を振り返り、自己の課題を明確にする。
10	内藤 徹	ユニット10：口腔ケアに関する臨床疑問の明確化 G I O：臨床での経験を通して感じた疑問を明確にしてClinical Questionを作成する。 S B O s： 1) 臨床で感じた疑問を列挙することができる。 2) 臨床の疑問をPICO (Patient, Intervention, Comparison, Outcome) の形で示すことができる。 3) Outcomeの測定法について説明できる。 (方法：講義、討議)	これまでに臨床実習で感じた疑問点を自分の言葉で書き出しておく。	定型の書式で、臨床の疑問点をPICOとして完成させる。
11	内藤 徹	ユニット11：口腔ケアに関する関連文献の収集と分析 G I O：Clinical Questionに対応した文献を収集し分析する。 S B O s： 1) PubMed、医中誌による文献検索ができる。 2) 検索した文献の重要度が判定できる。 3) 文献を要約して、Structured abstractを作成することができる。 (方法：演習、討議)	端末を使用してPubMedを操作してみる。	テーマとなった文献のStructured abstractを完成させる。
12	内藤 徹	ユニット12：口腔ケアに関する研究デザインの理解 G I O：研究デザインを説明できる。 S B O s： 1) 観察研究の研究デザインを説明できる。 2) 介入研究の研究デザインを説明できる。 3) 研究デザインごとの長所と短所を説明できる。 (方法：講義、演習、討議)	課題論文に目を通して、summaryを自分の言葉で書き出しておく。	課題論文のOutcomeを抽出する。
13	内藤 徹	ユニット13：口腔ケア研究に関するメタアナリシス G I O：介入研究のメタアナリシスが実施できる。 S B O s： 1) 複数の文献からSummary of findingsテーブルが作成できる。 2) Review Managerに抽出データを挿入してメタアナリシスが実施できる。 3) メタアナリシスのデータの数値の意味が説明できる。 (方法：講義、演習)	課題論文からSummary of findingsテーブルを作成する。	メタアナリシスのデータを用いたプレゼンテーションを作成する。
14	内藤 徹	ユニット14：口腔ケア研究に関する研究計画の立案 (1) G I O：Clinical Questionに対応した研究計画を立案できる。 S B O s： 1) 研究計画書の構造を理解を深める。 2) 研究倫理について理解を深める。 3) Outcomeの測定方法を理解を深める。 (方法：演習、討議)	それまでの講義で抽出された課題論文を参考にして、研究計画の素案を作成する。	研究計画書を作成する。
15	内藤 徹	ユニット15：口腔ケア研究に関する研究計画の立案 (2) G I O：研究計画書を作成することができる。 S B O s： 1) サンプルサイズの計算ができる。 2) Outcomeの大きさの推定ができる。 (方法：演習、討議)	研究計画書を錬成する。	研究計画書を完成させる。

科目名（科目NO.）	看護倫理特論（MN011115）					時間数	30時間		
学年	1	科目区分	必修	単位数	2	授業形態	講義	開講期	前期
評価責任者	飯野英親								
担当教員名	飯野英親、松尾和枝、岩本利恵、永嶋哲也								
【授業の概要】	看護職の法的責任と任務及び職業倫理など看護職としての倫理観を高めるとともに、医療看護における倫理的課題の考察を通して、医療倫理の問題や倫理的な看護実践への対応能力を高める。								
【到達目標】	1. 倫理的問題を分析するための、基本的な原則、概念について探求する。 2. 臨床、在宅における医療福祉に関する諸問題について、倫理的な推論に基づいて分析解釈し、態度表明、倫理的行為の実現について探求する。 3. 事例検討を用いて、看護実践場面における医療倫理の問題や看護倫理的な判断について探求する。								
【授業の方法】	授業の展開：講義、事例検討、受講者がプレゼンテーション。 意見交換・共有：プレゼンテーション等の内容について、全体討議を行う。								
【ディプロマ・ポリシーとの関連】 □に✓する ※複数選択可	☐ 1. 口腔を起点として全身の健康を支援する看護実践への質的転換を図るためのケアを提案・推進する能力を身に付けている。 ☐ 2. 看護活動に関する最新の知見や動向に関する理解と看護活動における俯瞰的なものの見方や実践的な応用能力を身に付けている。 ☒ 3. 看護の対象の特性や看護の場面に応じた現象を科学的に探究し、臨床教育・継続教育で実践するための高度な専門知識と応用能力を身に付けている。 ☒ 4. 看護実践の改善・開発に必要となる研究マインドと、医療看護を対象とする看護研究の遂行能力を身に付けている。								
【授業時間外の学習】 （事前・事後学習）	自身の看護専門領域における倫理的課題に関する事例を想起し、毎回の講義内容とリンクさせながら学習を進めてほしい。倫理的課題について、専門用語を適切に使用して、論理的に論じられるよう、参考文献を読んで準備をすること。								
【課題に対するフィードバック】	レポートには個別にコメントをつけて返却する。レポート返却期間、日時は、学生メール・掲示にて連絡する。								
【評価方法】	レポート30%、プレゼンテーション30%、討議での発言の適格性、討論への積極性40%								
【教科書】	必要時に提示する。資料配布。								
【参考図書】	Dolores Dooley（著）Joan McCarthy（著）坂川雅子（訳）、『看護倫理 第1巻 第2巻』、みすず書房、2006。 Gregory E. Pence（著）宮坂道夫（訳）長岡成夫（訳）、『医療倫理1・2』、みすず書房、2000。 鶴若麻理・麻原きよみ編、『ナラティブでみる看護倫理～6つのケースで感じるちからを育む』、南江堂、2013。 Sara T. Fry（著）Megan-Jane Johnstone（著）片田 範子（訳）、『看護実践の倫理【第3版】—倫理的意 思決定のためのガイド』日本看護協会出版会、2010。 石井トク（著）野口恭子（著）、『看護の倫理資料集 第2版 —看護関連倫理規定/綱領/宣言の解説』、丸善、2007。								

【授業計画】

回数	担当教員	授業内容	事前学習	事後学習
1 ・ 2	永嶋哲也	ユニット1：自己決定とインフォームドコンセント G I O：自己決定の権利との関連からインフォームドコンセントを理解することにより、インフォームドコンセントの意味を再確認する。 S B O s： 1) インフォームドコンセントと説明義務との違いについて説明できる。 2) 診療場面と研究場面とで意味が異なることを説明できる。 3) 法的責任能力について説明できる。 (方法：講義、討議)	テーマに即して、文献等を読み、討議できるように疑問点をまとめておく。	学修した内容をリアクションペーパーにまとめる。
3 ・ 4	永嶋哲也	ユニット2：自己決定とプライバシー G I O：自己決定の権利との関連からプライバシーを理解することにより、プライバシーの尊重について説明できる。 S B O s： 1) プライバシー尊重と守秘義務との違いについて説明できる。 2) 新旧のプライバシーについて説明できる。 3) 自己情報コントロール権について説明できる。 (方法：講義、討議)	テーマに即して、文献等を読み、討議できるように疑問点をまとめておく。	学修した内容をリアクションペーパーにまとめる。
5 ・ 6	永嶋哲也	ユニット3：人を対象する生命科学・医学系研究に関する倫理指針とヘルシンキ宣言 G I O：研究倫理に関する歴史的経緯を学ぶことにより、現行の倫理宣言と倫理指針に関して説明できる。 S B O s： 1) ニュルンベルク綱領とヘルシンキ宣言について説明できる。 2) タスキギー事件と国家研究法、改定ヘルシンキ宣言について説明できる。 3) 人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針について説明できる。 (方法：講義、討議)	テーマに即して、文献等を読み、討議できるように疑問点をまとめておく。	学修した内容をリアクションペーパーにまとめる。
7	永嶋哲也	ユニット4：倫理審査申請の要点 G I O：自らの研究計画に基づき倫理審査申請書を作成するという観点から倫理指針を理解することにより、研究倫理について説明できる。 S B O s： 1) 倫理的配慮のなされた研究計画を策定できる。 2) 倫理審査申請書における各項目の意味について説明できる。 3) 自らの研究計画に基づき倫理審査申請書を作成できる。 (方法：講義、討議)	テーマに即して、文献等を読み、討議できるように疑問点をまとめておく。	学修した内容をリアクションペーパーにまとめる。
8 ・ 9	松尾和枝	ユニット5：医療倫理・看護倫理の変遷、倫理原則 G I O：倫理学を学習する意義、医療倫理・看護倫理の変遷、倫理原則について説明できる。 S B O s： 1) 倫理学を学習する意義、医療倫理・看護倫理の変遷について説明できる。 2) 倫理原則、および看護実践上重要な倫理的概念について説明できる。 (方法：講義、討議)	授業で取り上げるテーマに即して、文献等を読み、討議できるように疑問点をまとめておく。	授業での討議を振り返り、自己の課題を明確化する。
10 ・ 11	飯野英親	ユニット6：現代医療における倫理的課題1：患者の自律、アドボカシー、インフォームド・コンセント、機密保持 G I O：患者の自律、アドボカシー、インフォームド・コンセント、機密保持に関する倫理的課題について説明できる。 S B O s： 1) 患者の自律、アドボカシー、インフォームド・コンセント、機密保持についての倫理的課題について説明できる。 2) 患者の自律、アドボカシー、インフォームド・コンセント、機密保持について、臨床事例をもとに、看護者としての介入の留意点について説明できる。 (方法：講義、討議)	授業で取り上げるテーマに即して、文献等を読み、討議できるように疑問点をまとめておく。	授業での討議を振り返り、患者の自律、アドボカシー、インフォームド・コンセント、機密保持についての倫理的課題について自分の意見をまとめる。

【授業計画】

回数	担当教員	授業内容	事前学習	事後学習
12 ・ 13	飯野英親	ユニット7：現代医療における倫理的課題：出生前診断、遺伝子検査・治療 G I O：臨床事例を基に、出生前診断、遺伝子検査・治療に関する倫理的課題、遺伝看護の目的について説明できる。 S B O s： 1）出生前診断、遺伝子検査・治療の倫理的課題について説明できる。 2）遺伝看護の目的について説明できる。 3）討論を通して、出生前診断の臨床的特徴と受診過程の特性を踏まえ、遺伝カウンセリング、遺伝看護専門職の役割の理解、意思決定支援・QOL・尊厳の保持に関する倫理的課題を明確にできる。 4）出生前診断・染色体異常に関する倫理的ジレンマについて、倫理原則（自律・善行・無危害・正義）およびケア倫理の観点から分析できる。 （方法：講義、討議）	授業で取り上げるテーマに即して、文献等を読み、討議できるように疑問点をまとめる。	授業での討議を振り返り、出生前診断、遺伝子検査・治療に関する倫理的課題についてまとめる。
14 ・ 15	岩本利恵	ユニット8：事例検討（終末期患者とその家族の事例） G I O：終末期患者とその家族の事例に生じる倫理的課題を多角的に分析し、倫理原則および看護倫理の観点から適切な看護介入および多職種連携のあり方について説明できる。 S B O s： 1）討論を通して、終末期にある患者・家族の臨床的特徴と療養過程の特性を踏まえ、意思決定支援・QOL・尊厳の保持、死に関する倫理的課題を明確にできる。 2）病状進行に伴う患者・家族の心理社会的負担を踏まえ、アドバンス・ケア・プランニング（ACP）を含む意思決定支援における看護介入について説明できる。 3）終末期医療における多職種チームの倫理的役割と連携のあり方について説明できる。 4）終末期における看護の専門性と倫理的責任について論述できる。 （方法：討論・発表）	授業で取り上げるテーマに即して、文献等を読み、討議できるように疑問点をまとめる。	授業での討議を振り返り、自己の課題を明確化する。

科目名（科目NO.）	看護教育特論（MN013120）					時間数	30時間		
学年	1	科目区分	選択	単位数	2	授業形態	講義	開講期	後期
評価責任者	山下（青木）久恵								
担当教員名	山下（青木）久恵、飯野英親、宮園真美、田出美紀								
【授業の概要】	指導的立場にある看護職者が果たす教育的役割についての理解を深め、看護教育の成り立ちや質の高い看護教育を展開するための教育技法、教育課程のあり方について理解を深める。看護職者に対する看護継続教育に関する専門的理解を深め、現代の看護継続教育について考察する。								
【到達目標】	1. 自立した質の高い看護職の育成を実現するための認知心理学的知見を踏まえた教育技法に関する諸理論を学び、認知カウンセリングの実践例から自己の学習や教育経験を振り返りながら、より望ましい教育方法について探求する。 2. 看護教育の背景を理解し、社会のニーズに沿って変化する看護教育実践方法についてグループワークの中で探求する。 3. 医療安全アセスメント力を向上させる医療安全教育について探求する。								
【授業の方法】	講義を受け、文献を通して批判的思考による発表およびディスカッションを行い、レポートを提出する。								
【ディプロマ・ポリシーとの関連】 □に✓する ※複数選択可	□ 1. well-being を基盤にした健康支援と口腔に対する看護実践の質的向上に貢献するケアを提案・推進する能力を身に付けている。 □ 2. 看護活動に関する最新の知見や動向に関する理解と看護活動における俯瞰的なものの見方や実践的な応用能力を身に付けている。 ☑ 3. 看護の対象の特性や看護の場面に応じた現象を科学的に探究し、臨床教育・継続教育で実践するための高度な専門知識と応用能力を身に付けている。 □ 4. 看護実践の改善・開発に必要なとなる研究マインドと、医療看護を対象とする看護研究の遂行能力を身に付けている。								
【授業時間外の学習】 （事前・事後学習）	毎回の講義内容に関連した内容を事前学習し、健康支援に関連する事例やプレゼンテーションに関する準備を行う。事後は、自己の学習内容と課題を明らかにし、論文作成およびその後の看護に生かせるポートフォリオとしてまとめる。								
【課題に対するフィードバック】	レポートおよび成果物へのコメントを返却する。								
【評価方法】	レポート 30%、プレゼンテーション 50%、授業中の発言、ディスカッション時の積極性など20%								
【教科書】	特に指定しない。適宜、文献等を利用する。								
【参考図書】	1. 看護六法 2019年版 看護行政研究会 新日本法規 2. 金井壽宏・楠見孝：実践知－エキスパートの知性、有斐閣、2012。 3. David A. Kolb：Experiential Learning: Experience as the Source of Learning and Development 2nd, Pearson FT Press, 2014. 4. 松尾睦，職場が生きる 人が育つ「経験学習」入門，ダイヤモンド社，2011。 5. 阿部幸恵，臨床実践力を育てる！看護のためのシミュレーション教育，医学書院，2015。 6. 徳永基与子，看護教員・学生のためのICTで学ぶ看護，総合医学社，2024。								

【授業計画】

回数	担当教員	授業内容	事前学習	事後学習
1	山下久恵	科目オリエンテーション ユニット1：認知心理学的知見を踏まえた教育技法 G I O：人間の情報処理の観点で効果的な教育技法について説明できる。 S B O s： 1) 人間の記憶に関する特徴を理解し、その特徴を踏まえた教育技法を説明することができる。 2) 自身の教育経験を振り返り、人間の情報処理の観点で重要と考える教育技法について説明し、討議することができる。 (方法：講義、抄読会、討議)	授業で取り上げるテーマに即して、文献、書籍を読み、討議できるように疑問点をまとめておく。	授業での討議を振り返り、自己の課題を明確にする。
2	山下久恵	ユニット2：看護師の熟達化（認知心理学的知見を踏まえた教育技法） G I O：初学者がベテランへと熟達化（成長）するプロセスについて説明できる。 S B O s： 1) 職業人の熟達化に関する文献を精読し、熟達化のプロセスについて説明できる。 2) 熟達化に関連する要因についての文献を精読し、説明できる。 3) 看護教育における熟達化を促進するための方法、自分の考えを述べることができる。 (方法：講義、抄読会、討議)	授業で取り上げるテーマに即して、文献、書籍を読み、討議できるように疑問点をまとめておく。	授業での討議を振り返り、自己の課題を明確にする。
3	山下久恵	ユニット3：認知カウンセリングの実践例による自立した看護職の育成 G I O：自立した質の高い看護職の育成を実現するための教育方法について説明できる。 S B O s： 1) 自立した看護職を育成するために、自己教育力・経験学習・認知カウンセリング・自己調整学習に関する文献を精読し、説明することができる。 2) 自己の教育経験を振り返り、自立した看護職の育成をテーマに、失敗経験とその要因について説明・討議ができる。 3) 自立した看護職の育成を実現するための教育方法について自己の考えをまとめ、説明・討議ができる。 (方法：講義、抄読会、討議)	授業で取り上げるテーマに即して、文献、書籍を読み、討議できるように疑問点をまとめておく。	授業での討議を振り返り、自己の課題を明確にする。
4	宮園真美	ユニット4：看護教育の現状 G I O：看護基礎教育、看護卒後教育、看護継続教育に求められる教育水準と課題について説明できる。 S B O s： 1) 看護基礎教育および継続教育の教授活動について現状と課題について説明できる。 2) 指導的立場にある看護職者が果たす教育的役割及び看護教育の一連の展開方法について説明できる。 (方法：講義、討議)	課題資料に関して事前学習し自己の意見をまとめておく。	リアクションペーパーにまとめる。
5	宮園真美	ユニット5：看護教育の課題と看護教育方法 G I O：看護教育の諸課題について説明し、看護教育方法について提案できる。 S B O s： 1) 看護教育方法について、学習指導計画、教材作成、模擬授業、授業評価など、一連の展開方法について説明できる。 (方法：講義、討議)	課題資料に関して事前学習し自己の意見をまとめておく。	リアクションペーパーにまとめる。

【授業計画】

回数	担当教員	授業内容	事前学習	事後学習
6 ・ 7	飯野英親	ユニット6：成人学習者支援 G I O：指導的立場にある看護職者が果たす、新人教育について説明できる。 S B O s： 1) 看護職者に対する現代のキャリア概念、キャリア開発、および看護継続教育システムについて説明できる。 2) クリニカルラダーシステムに対する教育的利点・課題について、論文報告をもとに説明できる。 (方法：講義、抄読会、討議)	テーマに即して、文献等を読み、討議できるように疑問点をまとめておく。	修得した内容をリアクションペーパーにまとめる。
8	飯野英親	ユニット7：成人学習者の学びを支援する看護学教育の課題と展望 G I O：臨床で看護学教育を受ける対象者（看護学生・新人・中途採用の看護職者）に対するよりよい教育体制や学習環境について説明できる。 S B O s： 自己の経験や文献をもとに、看護学生に対するよりよい教育体制や学習環境について説明・提案できる。 (方法：講義、抄読会、討議)	テーマに即して、文献等を読み、討議できるように疑問点をまとめておく。	修得した内容をリアクションペーパーにまとめる。
9	田出美紀	ユニット8：ICTを利用した看護教育 G I O：ICTを利用した看護教育の教育的利点・課題について説明できる。 S B O s： 1) ICTを利用した看護教育方法について、論文報告をもとに説明できる。 2) ICTを利用した看護教育方法の課題について、論文報告をもとに説明できる。 (方法：講義、抄読会、討議)	テーマに即して、文献等を読み、討議できるように疑問点をまとめておく。	修得した内容をリアクションペーパーにまとめる。
10	田出美紀	ユニット9：シミュレーションを利用した看護教育 G I O：シミュレーションを利用した看護教育の教育的利点・課題について説明できる。 S B O s： 1) シミュレーションを利用した看護教育方法について、論文報告をもとに説明できる。 2) シミュレーションを利用した看護教育方法の課題について、論文報告をもとに説明できる。 (方法：講義、抄読会、討議)	テーマに即して、文献等を読み、討議できるように疑問点をまとめておく。	修得した内容をリアクションペーパーにまとめる。
11	田出美紀	ユニット10：ICT教育力やシミュレーション教育の向上 G I O：ICT教育力やシミュレーション教育の向上、看護教育への応用について説明できる。 S B O s： 1) ICT教育力やシミュレーション教育の向上、看護教育への応用について、論文報告をもとに説明できる。 (方法：講義、抄読会、討議)	テーマに即して、文献等を読み、討議できるように疑問点をまとめておく。	修得した内容をリアクションペーパーにまとめる。
12 ・ 13 ・ 14 ・ 15	山下久恵	ユニット11：成長を促すための教育技法 G I O：看護職の成長を促すための教育技法について説明できる。 S B O s： 1) 熟達化・人間の情報処理・認知カウンセリング技法のいずれかの教育技法について説明できる。 2) 自己の経験を振り返り、選択したテーマを1つ選び、看護職の成長を促すための教育技法について説明できる。 (方法：事前課題レポート提出、発表、討議)	資料を事前に作成し、プレゼンテーションおよびディスカッションを行う。	授業での討議を振り返り、自己の課題を明確にする。

科目名（科目NO.）	看護管理特論（MN023104）					時間数	30 時間		
学年	2	科目区分	選択	単位数	2	授業形態	講義	開講期	前期
評価責任者	飯野英親								
担当教員名	飯野英親，内田荘平，松尾和枝								
【授業の概要】	看護管理における看護継続教育と人材活用や看護人材育成システム、臨床看護研究を通じた看護師キャリアについて理解を深めるとともに、医療・看護実践の安全性を促進し、安全な医療・看護を提供するための意識を高める。								
【到達目標】	1. 看護管理の基本となる諸理論及び臨床における看護管理過程について説明できる。 2. 看護管理における人的資源活用の本質と現任教育機能を深く理解できる。 3. 看護管理者に求められる人材資源活用の役割と責務について理解、探究できる。 4. 医療安全の原理・原則を理解し、病院組織における医療安全管理活動に活用できる。 5. 医療安全に関わる法、倫理、制度、システムを理解できる。 6. 人間の行動特性を理解し、医療事故とヒューマンエラーの関係性を説明できる。 7. 医療事故事例を分析し、対策を検討することができる。 8. 臨床看護研究と看護師としてのキャリアについて考えを説明できる。								
【授業の方法】	講義を中心にレポートの提出、ディスカッション・発表を行う								
【ディプロマ・ポリシーとの関連】 □に✓する ※複数選択可	☐ 1. well-being を基盤にした健康支援と口腔に対する看護実践の質的向上に貢献するケアを提案・推進する能力を身に付けている。 ☒ 2. 看護活動に関する最新の知見や動向に関する理解と看護活動における俯瞰的なものの見方や実践的な応用能力を身に付けている。 ☒ 3. 看護の対象の特性や看護の場面に応じた現象を科学的に探究し、臨床教育・継続教育で実践するための高度な専門知識と応用能力を身に付けている。 ☐ 4. 看護実践の改善・開発に必要な研究マインドと、医療看護を対象とする看護研究の遂行能力を身に付けている。								
【授業時間外の学習】 （事前・事後学習）	自身の専門領域における安全管理に関する事例のプレゼンテーション準備と、毎回の講義内容をリンクさせながら学習を進めてほしい。倫理の問題を、専門用語を適切に使用して、論理的に論じられるよう、参考文献等で準備をすること。								
【課題に対するフィードバック】	レポートのフィードバックは、その都度講義内で行う。								
【評価方法】	ミニレポート 20%、討議での主張と根拠 50%、討議での発言の適格性、討論への積極性 30%								
【教科書】	1. 嶋森好子 任和子 編集「医療安全とリスクマネジメント」ヌーヴェルヒロカワ 2008 2. 吉田 千文、他編集「ナースングラフィカ 看護の統合と実践 1 看護管理」メディカ出版 2023								
【参考図書】	1. 日本看護協会 「医療安全推進のための標準テキスト」医療安全推進委員会 2013 https://www.nurse.or.jp/nursing/home/publication/pdf/guideline/anzensuishin_text.pdf 2. 井部俊子 監修「看護管理学習テキスト第3版 第2巻 看護サービスの質管理」日本看護協会出版会 2024 3. 井部俊子 監修「看護管理学習テキスト第3版 第4巻 組織管理論」日本看護協会出版会 2024								

【授業計画】

回数	担当教員	授業内容	事前学習	事後学習
1 ・ 2	飯野英親	ユニット1：看護管理と諸理論 G I O：看護管理と諸理論の範囲と概要について説明できる。 S B O s：看護管理者の役割、看護専門職の活動と機能、看護関連法規、組織の成り立ちと構造、ヘルスケアシステム、看護サービス提供論、看護サービスの質の管理、グループマネジメント、キャリア開発論、看護情報論の目的と機能について、議論を通して課題を明確にする。 （方法：発表と討議）	テーマに即して、文献等を読み、討議できるように疑問点をまとめる。	学修した内容をリアクションペーパーにまとめる。
3 ・ 4	飯野英親	ユニット2：看護における人的資源活用論1 G I O：看護専門職のキャリア開発、人材育成、活用に関する基本概念と知識、現場の課題と解決の方策について議論を通して課題を明確にする。 S B O s： 1) 看護の人的資源開発・支援に必要な基本的な概念について説明できる。 2) 看護の人材開発のためのシステムを理解し、システムの活用方法について、議論を通して課題を明確にする。 （方法：発表と討議）	テーマに即して、文献等を読み、討議できるように疑問点をまとめる。	学修した内容をリアクションペーパーにまとめる。
5	飯野英親	ユニット2：看護における人的資源活用論2 G I O：人的資源の活用、組織と知的財産、スペシャリストの支援、継続教育、施設内教育・施設外教育に関する基本概念と知識、現場の課題と解決の方策について議論を通して課題を明確にする。 S B O s： 1) 人的資源の活用、組織と知的財産について自分の経験をもとに議論を通して課題を明確にする。 2) スペシャリストへの支援、継続教育、施設内教育・施設外教育に関する基本概念について説明できる。 （方法：発表と討議）	テーマに即して、文献等を読み、討議できるように疑問点をまとめる。	学修した内容をリアクションペーパーにまとめる。
6	内田荘平	ユニット3：看護組織論 G I O：保健・医療・福祉サービス提供組織が関連法規によって守られ、かつ制約を受けているという特徴を踏まえながら組織としての機能を最大に発揮するための考え方について検討する。 S B O s： 1) 保健・医療・福祉サービス提供組織の特徴を理解する。 2) 所属する組織を客観的にとらえ、保健・医療・福祉の統合パラダイムの中で、どのように機能するのかを考察できる。 （方法：講義・討議）	テーマに即して、文献等を読み、討議できるように疑問点をまとめる。	学修した内容をリアクションペーパーにまとめる。
7	内田荘平	ユニット4：看護マネージメント論 （サービス業としての医療） G I O：看護サービスを管理するために必要な知識と技術とは何かという課題を通して、管理の原則について検討する。 S B O s： 1) 看護サービス管理とそのプロセスを理解し、質的向上を図るための課題を明らかにする。 2) 近代的管理論を構築したテラーと、ファール、メーヨをもとに、管理の原則の基本を理解する。 （方法：講義・討議）	テーマに即して、文献等を読み、討議できるように疑問点をまとめる。	学修した内容をリアクションペーパーにまとめる。
8	内田荘平	ユニット5：看護マネージメント論 （リーダーシップ論） G I O：リーダーシップの概念、変遷、チーム医療としての看護師のリーダーシップを通して、医療環境によって変化するリーダーシップを議論し課題を明らかにする。 S B O s： 1) 組織・チームを強くするフォロワーシップとは何か説明できる 2) リーダーシップの基本的概念、および環境によって類型を説明できる、 3) ドラッカーが定義するリーダーシップを用い、現在の医療環境における自身のリーダー像について、議論を通して課題を明確にする。 （方法：講義・討議）	テーマに即して、文献等を読み、討議できるように疑問点をまとめる。	学修した内容をリアクションペーパーにまとめる。

【授業計画】

回数	担当教員	授業内容	事前学習	事後学習
9 ・ 10	内田 莊平	ユニット 6： リスクマネジメントと危機管理 G I O： 医療施設が直面する災害や事故などリスク及び危機は多様である。各種事象における危機発生を未然に防止するため、「アポロ13号」・「はやぶさ1号」の事例に学び、危機を未然に防止し、発生した場合に被害を最小限に食い止める対策について、現場の課題と方策を討論を通して課題を明確にする。 S B O s： 1) リスクマネジメントと危機管理の重要性について説明できる。 2) 医療機関で起こりやすい医療事故の対策を説明できる。 3) 医療機関で発生する可能性がある災害の対策を説明できる。 4) 事例について、リスク分析を実施ができる。 5) 医療機関における医療安全管理の実際を説明できる。 (方法：講義・討議)	テーマに即して、文献等を読み、討議できるように疑問点をまとめておく。	講義で学んだ内容をノートに整理し、講義後に出される論点について自己の考察をまとめる
11 ・ 12	松尾和枝	ユニット 7：看護サービスの質管理 G I O：看護サービスの質を評価・改善するための諸理論を理解し、質の保証と向上に向けた看護管理のあり方について考えを深化させる。 S B O s： 1) 看護サービスの質を構成する要素と、質を客観的に評価するための指標について説明できる。 2) 継続的な質改善(QI)および医療安全管理の具体的手法とその適用における課題について説明できる。 3) 組織における安全文化の醸成とサービスの質を担保するための、看護管理者の役割について議論を通して自身の考えを明確にする。 (方法：講義・討議)	テーマに即して、文献等を読み、討議できるように疑問点をまとめておく。	講義で学んだ内容をノートに整理し、講義後に出される論点について自己の考察をまとめる。
13 ・ 14	松尾和枝	ユニット 8：組織行動のマネジメント G I O：組織行動に関する諸理論を理解し、多様な人材が能力を発揮できる看護組織の構築とマネジメントのあり方について考えを深化させる。 S B O s： 1) 組織における個人のモチベーションや集団の力学(グループダイナミクス)に関する主要な理論について説明できる。 2) 組織の変革プロセス、コンフリクト・マネジメント、およびチームビルディングの具体的な手法について説明できる。 (方法：講義・討議)	テーマに即して、文献等を読み、討議できるように疑問点をまとめておく。	講義で学んだ内容をノートに整理し、講義後に出される論点について自己の考察をまとめる。
15	松尾和枝	ユニット 8：組織行動のマネジメント G I O：組織行動に関する諸理論を理解し、多様な人材が能力を発揮できる看護組織の構築とマネジメントのあり方について考えを深化させる。 S B O s： 1) 看護職員のエンパワーメントや自律性を高める組織文化の醸成に向けた、看護管理者の役割について議論を通して自身の考えを明確にする。 (方法：講義・討議)	テーマに即して、文献等を読み、討議できるように疑問点をまとめておく。	講義で学んだ内容をノートに整理し、講義後に出される論点について自己の考察をまとめる。

科目名（科目NO.）	病態生理特論（MN023125）					時間数	30 時間		
学年	2	科目区分	選択	単位数	2	授業形態	講義	開講期	前期
評価責任者	荒川満枝								
担当教員名	荒川満枝、秋好久美子								
【授業の概要】	看護師は、その実践において人間の身体に生じる様々な病理学的変化に遭遇する。その病態の成り立ちを器官、組織、細胞のレベルで理解し、さらに、病態の発生メカニズムの分子レベルでの理解をすることで、病理診断、医学的判断過程を看護実践に活かすことを目指す。授業では、解剖・生理学も概観しながら組織観察と討議を取り入れて行い、理解を深める。								
【到達目標】	1. 組織・細胞レベルで疾病を理解し、説明することができる。 2. 病態を疾患の回復過程との関係性を踏まえて説明することができる。 3. 疾病の原因とその生体の反応を踏まえた看護を計画できる。								
【授業の方法】	講義を通して理解するとともに、ディスカッションを通して理解を深める。更に興味を持った疾患について、得た知識を統合してプレゼンテーションし自身の課題を見つける。								
【ディプロマ・ポリシーとの関連】 □に✓する ※複数選択可	☒ 1. well-being を基盤にした健康支援と口腔に対する看護実践の質的向上に貢献するケアを提案・推進する能力を身に付けている。 ☐ 2. 看護活動に関する最新の知見や動向に関する理解と看護活動における俯瞰的なものの見方や実践的な応用能力を身に付けている。 ☒ 3. 看護の対象の特性や看護の場面に応じた現象を科学的に探究し、臨床教育・継続教育で実践するための高度な専門知識と応用能力を身に付けている。 ☐ 4. 看護実践の改善・開発に必要なとなる研究マインドと、医療看護を対象とする看護研究の遂行能力を身に付けている。								
【授業時間外の学習】 （事前・事後学習）	講義後に自身の理解の足りないところを発見し、自身の言葉で理解し、文献を読みこなす能力を身に付ける。各受講者の追究したい疾患を絞り込み、プレゼンテーションの準備を行う。授業中のディスカッションの振り返りも授業を深めるために重要となる。								
【課題に対するフィードバック】	ディスカッションやプレゼンテーションに対して、授業時間中に適宜助言を行う。								
【評価方法】	プレゼンテーション 50%、ディスカッション内容 50%								
【教科書】	1. 大橋健一：系統看護学講座 専門基礎分野 病理学 疾病のなりたちと回復の促進 1. 医学書院, 2021.								
【参考図書】	1. 北川昌伸, 仁木利郎編：標準病理学, 東京, 医学書院, 2019. 2. 田中越郎：系統看護学講座 専門基礎分野 病態生理学 疾病のなりたちと回復の促進 2. 東京, 医学書院, 2016. 3. 下 正宗：正常画像と比べてわかる 病理アトラス 改訂版～全身がみえてくる！ 118 疾患 1000 画像. 東京, 羊土社, 2015.								

【授業計画】

回数	担当教員	授業内容	事前学習	事後学習
1	荒川満枝	ユニット1 身体の構造の基本となる細胞と組織の構造と機能の概要1 G I O : 細胞の構造と機能、組織、器官の関係と恒常性の維持、発生について説明できる。 S B O s : 1) 各細胞内小器官の構造と機能に関して理解し、細胞の働きを説明できる。 2) 細胞・組織、器官の関係と恒常性の維持、発生に関して説明できる。 (方法: 講義と討議)	授業内容に関して教科書の該当部分を予習し、自己の疑問をまとめておく。	教科書以外の文献を探し、知識の確認をする。
2	荒川満枝	ユニット2 病理診断方法概要 G I O : 細胞や組織の構造や機能について組織観察をもとに説明できる。 S B O s : 1) 組織観察の基本とその原理、組織染色方法、顕微鏡観察の基本を説明できる。 2) 正常細胞の形態や機能、細胞周期に関する理解を説明できる。 (方法: 講義と討議)	授業内容に関して教科書の該当部分を予習し、自己の疑問をまとめておく。	教科書以外の文献を探し、知識の確認をする。
3	荒川満枝	ユニット3 細胞の障害と修復 G I O : 障害を受けた細胞の修復や適応について説明できる。 S B O s : 1) 変性、細胞死、酸化ストレス、萎縮・老化、肥大・過形成、化生を説明できる。 2) 細胞の変化を適応として捉えることができる。 (方法: 講義と討議)	授業内容に関して教科書の該当部分を予習し、自己の疑問をまとめておく。	教科書以外の文献を探し、知識の確認をする。
4	荒川満枝	ユニット4 炎症 G I O : 炎症の生じる意義やメカニズムを説明できる。 S B O s : 1) 炎症の兆候と炎症反応と免疫担当細胞の働きを説明できる。 2) 各アレルギー反応における免疫担当細胞の働きを説明できる。 3) 創傷治癒を説明できる。 (方法: 講義と討議)	授業内容に関して教科書の該当部分を予習し、自己の疑問をまとめておく。	教科書以外の文献を探し、知識の確認をする。
5	荒川満枝	ユニット5 感染症1 G I O : 主な感染症の原因と動向について説明できる。 S B O s : 1) 主要な病原体と感染症を説明できる。 2) 感染症の治療と予防として、抗菌薬と薬剤耐性、抗ウイルス薬を説明できる。 (方法: 講義と討議)	授業内容に関して教科書の該当部分を予習し、自己の疑問をまとめておく。	教科書以外の文献を探し、知識の確認をする。
6	荒川満枝	ユニット5 感染症2 G I O : 主な感染症の原因と動向について説明できる。 S B O s : 1) 常在細菌叢と日和見感染症、新興・再興感染症を説明できる。 2) 感染症における対症療法と看護の重要性を説明できる。 (方法: 講義と討議)	授業内容に関して教科書の該当部分を予習し、自己の疑問をまとめておく。	何らかの感染症に関する文献を調べてみる。
7	荒川満枝	ユニット6 免疫異常 G I O : 正常な免疫システムその破綻、移植と再生医療について説明できる。 S B O s : 1) 免疫の仕組みを説明できる。 2) 感染症と免疫の関係を説明できる。 3) アレルギー、自己免疫疾患について説明できる。 (方法: 講義と討議)	授業内容に関して教科書の該当部分を予習し、自己の疑問をまとめておく。	教科書以外の文献を探し、知識の確認をする。

【授業計画】

回数	担当教員	授業内容	事前学習	事後学習
8	荒川満枝	ユニット7 腫瘍、先天異常と遺伝子異常 G I O : 腫瘍の発生機序や分類、染色体や遺伝子に異常が生じる機序、主な染色体・遺伝子異常について説明ができる。 S B O s : 1) 腫瘍の定義・分類、悪性腫瘍の転移、進行度について説明できる。 2) 腫瘍の発生機序、がん遺伝子、がん抑制遺伝子、腫瘍マーカーについて説明できる。 3) 染色体と遺伝子の構成、その異常の発生のメカニズムについて説明できる。 (方法: 講義と討議)	授業内容に関して教科書の該当部分を予習し、自己の疑問をまとめておく。	教科書以外の文献を探し、知識の確認をする。
9	秋好久美子	ユニット8 循環障害1 G I O : 正常な循環器系の構造と機能について説明できる。 S B O s : 1) 心臓・血管系・リンパ系の構造を説明できる。 2) 組織における物質交代と静水圧と浸透圧に関して説明できる。 (方法: 講義と討議)	授業内容に関して教科書の該当部分を予習し、自己の疑問をまとめておく。	教科書以外の文献を探し、知識の確認をする。
10	秋好久美子	ユニット8 循環障害2 G I O : 循環障害の原因と組織の状態について説明できる。 S B O s : 1) 浮腫、充血・うっ血の血管と組織の状態とその原因を説明できる。 2) 凝固系・線溶系の理解と出血、出血傾向、血栓、塞栓・梗塞を説明できる。 3) ショックの病態とその原因を説明できる。 (方法: 講義と討議)	授業内容に関して教科書の該当部分を予習し、自己の疑問をまとめておく。	循環器障害に関する何らかの文献を調べてみる。
11	秋好久美子	ユニット9 代謝障害1 G I O : 各代謝異常について説明できる。 S B O s : 1) 糖質代謝異常を説明できる。 2) 脂質代謝異常を説明できる。 3) タンパク質代謝異常を説明できる。 (方法: 講義と討議)	授業内容に関して教科書の該当部分を予習し、自己の疑問をまとめておく。	教科書以外の文献を探し、知識の確認をする。
12	秋好久美子	ユニット9 代謝障害2 G I O : 各代謝異常がもたらす疾患について説明できる。 S B O s : ・糖尿病とその合併症を説明できる。 ・代謝異常と循環器疾患の連関を説明できる。 ・代謝異常と腎疾患の連関を説明できる。 (方法: 講義と討議)	授業内容に関して教科書の該当部分を予習し、自己の疑問をまとめておく。	何らかの代謝障害に関する文献を調べてみる。
13	荒川満枝	ユニット10 口腔機能の異常 G I O : 口腔の疾患と機能異常について説明できる。 S B O s : 1) 口腔の正常な機能について説明できる。 2) 齲蝕や歯周病の病態とその原因を説明できる。 (方法: 講義と討議)	授業内容に関して教科書の該当部分を予習し、自己の疑問をまとめておく。	口腔機能の異常が原因となる疾患について調べてみる。
14	荒川満枝	ユニット11 事例紹介と分析1 G I O : 自身が課題にした疾患について説明できる。 S B O s : 1) プレゼンテーションされた疾患の病態について説明できる。 2) プレゼンテーションされた疾患のケアについて説明し、その課題について説明できる。 (方法: プレゼンテーションと討議)	プレゼンテーションの準備を行う。	他者のプレゼン内容について文献を調べてみる。
15	荒川満枝	ユニット11 事例紹介と分析2 G I O : 自身が課題にした疾患について説明できる。 S B O s : 1) プレゼンテーションされた疾患の病態について説明できる。 2) プレゼンテーションされた疾患のケアについて説明し、その課題について説明できる。 (方法: プレゼンテーションと討議)	プレゼンテーションの準備を行う。	他者のプレゼン内容について文献を調べてみる。

科目名（科目NO.）	看護援助特論（MN013201）					時間数	60 時間		
学年	1	科目区分	選択	単位数	4	授業形態	講義	開講期	通年
評価責任者	山下久恵								
担当教員名	山下久恵、門司真由美								
【授業の概要】	看護の援助を計画的に実施し評価する看護活動の過程についての理解を深めるとともに、適切な看護を実践するためのフィジカルアセスメントを基盤とした思考と実践の重要性について理解を深める。								
【到達目標】	1. 看護実践の根拠となるエビデンスを基盤にした看護過程展開のあり方、看護の対象者との相互作用について考察する。 2. 看護の対象のwell-being(最適な生活)を支援するために、看護実践の根拠となるフィジカルアセスメントの有用性について考察する。 3. 系統的アセスメントを看護に生かす上での課題について考察する。 4. 健康問題を抱える患者の看護を計画的に実施し評価する看護活動、看護過程についての理解を深める。								
【授業の方法】	講義を中心にレポートの提出、ディスカッション・発表を行う。								
【ディプロマ・ポリシーとの関連】 □に✓する ※複数選択可	☒ 1. well-being を基盤にした健康支援と口腔に対する看護実践の質的向上に貢献するケアを提案・推進する能力を身に付けている。 ☒ 2. 看護活動に関する最新の知見や動向に関する理解と看護活動における俯瞰的なものの見方や実践的な応用能力を身に付けている。 ☒ 3. 看護の対象の特性や看護の場面に応じた現象を科学的に探究し、臨床教育・継続教育で実践するための高度な専門知識と応用能力を身に付けている。 ☐ 4. 看護実践の改善・開発に必要なとなる研究マインドと、医療看護を対象とする看護研究の遂行能力を身に付けている。								
【授業時間外の学習】 (事前・事後学習)	毎回のテーマや講義内容に必要な知識を整理し講義に臨み、積極的に討議に参加する。								
【課題に対するフィードバック】	レポートおよび成果物へのコメントを返却する。								
【評価方法】	レポート30%、プレゼンテーション50%、授業中の発言、ディスカッション時の積極性など20%								
【教科書】	必要時提示する。資料配布。								
【参考図書】	1. アン・マリナー・トメイ、マーサ・レイラ・アリグッド著、都留伸子監訳、看護理論家とその業績 第3版、医学書院、2007。 2. ジュリア・B・ジョージ編、南裕子他名訳；看護理論集、日本看護協会出版会、2006。 3. ミルトン・メイヤロフ著田村真・向野宣之訳；ケアの本質—生きることの意味—、ゆるみ出版。 4. 大石繁宏、幸せを科学する、新曜社、2009。 5. David A. Kolb, Kay Peterson著、中野 真由美訳、最強の経験学習、辰巳出版、2018。 6. 松尾睦、職場が生きる 人が育つ「経験学習」入門、ダイヤモンド社、2011。 7. 水田祥代・窪田恵子監修、授業・演習・臨床・在宅現場でも、すぐに使える！看護で教える最新の口腔ケア、大道学館出版部、2020.2。								

【授業計画】

回数	担当教員	授業内容	事前学習	事後学習
1 ・ 2 ・ 3 ・ 4 ・ 5 ・ 6 ・ 7	門司真由美	ユニット1：フィジカルアセスメントと看護 G I O：フィジカルアセスメントの様々な方法について理解を深める。 S B O s： 1) フィジカルイグザミネーションを活用したフィジカルアセスメントの意義について説明できる。 2) フィジカルアセスメントを活用した看護を通して、患者の健康支援について討議することができる。 (方法：講義、討議)	授業で取り上げるテーマに即して、文献、書籍を読み、討議できるように疑問点をまとめておく。	授業での討議を振り返り、自己の課題を明確にする。
8 ・ 9 ・ 10 ・ 11 ・ 12 ・ 13 ・ 14 ・ 15	門司真由美	ユニット2：フィジカルアセスメントの評価 G I O：フィジカルアセスメントを通して、患者の最適な生活 (well-being) を支援する看護を深める。 S B O s： 1) フィジカルアセスメントの看護実践に対して、リフレクションを行い、自己の課題を説明することができる。 2) 自己の課題に対しての改善策や支援方法について討議することができる。 (方法：講義、討議)	授業で取り上げるテーマに即して、文献、書籍を読み、討議できるように疑問点をまとめておく。	授業での討議を振り返り、自己の課題を明確にする。
16 ・ 17 ・ 18 ・ 19 ・ 20 ・ 21 ・ 22	山下久恵	ユニット3：健康問題と看護過程 G I O：症状を呈する患者のフィジカルアセスメントにおいて、疾患や症状のメカニズムを理解する意義について理解を深める。 S B O s： 1) 提示された患者事例について、系統的アセスメントの方法との関連について検討することができる。 2) 看護過程において、疾患や症状のメカニズムに関する知識を活用したフィジカルアセスメントの意義について説明できる。 (方法：講義、討議)	授業で取り上げるテーマに即して、文献、書籍を読み、討議できるように疑問点をまとめておく。	授業での討議を振り返り、自己の課題を明確にする。
23 ・ 24 ・ 25 ・ 26 ・ 27 ・ 28 ・ 29 ・ 30	山下久恵	ユニット4：患者の自己管理能力を支援する患者教育 G I O：患者が自身の健康問題に関する自己管理の方法について理解を深め、自己管理能力を支援する患者教育についての考察を深める。 S B O s： 1) 事例の患者の自己管理能力を育成するために、文献検索を行い、患者の最適な生活 (well-being) を支援するための計画を立案することができる。 2) 事例の患者の自己管理能力の支援方法および新たな社会資源やシステムなどの活用について討議することができる。 (方法：講義・討議)	授業で取り上げるテーマに即して、文献、書籍を読み、討議できるように疑問点をまとめておく。	授業での討議を振り返り、自己の課題を明確にする。

科目名（科目NO.）	看護・口腔医療連携特論（MN013208）					時間数	60 時間		
学年	1	科目区分	選択	単位数	4	授業形態	講義	開講期	通年
評価責任者	晴佐久悟								
担当教員名	晴佐久悟、内藤徹、山下（青木）久恵、門司真由美								
【授業の概要】	看護支援技術、及びそれらに関する最新の研究の学びを通して、看護・口腔医療連携のあり方を学び、看護師としての口腔ケア支援技術、看護・口腔連携研究の向上・深化につながることを理解を深める。								
【到達目標】	1. 看護支援技術・実態に関する理解を深め、対象者のwell-beingを目指した看護実践について探求する。 2. 病院の入院患者への看護摂食・嚥下支援技術の理解を深め、看護師としての口腔アセスメント・口腔ケア支援技術の向上・進化について探求する。 3. 看護・口腔連携研究における研究資料の収集法、研究デザイン、研究分析法について理解し、研究計画を立案できる。								
【授業の方法】	講義、演習、文献を通して批判的思考による発表およびディスカッションを行い、レポートを提出する。								
【ディプロマ・ポリシーとの関連】 □に✓する ※複数選択可	☒ 1. well-being を基盤にした健康支援と口腔に対する看護実践の質的向上に貢献するケアを提案・推進する能力を身に付けている。 ☒ 2. 看護活動に関する最新の知見や動向に関する理解と看護活動における俯瞰的なものの見方や実践的な応用能力を身に付けている。 ☐ 3. 看護の対象の特性や看護の場面に応じた現象を科学的に探究し、臨床教育・継続教育で実践するための高度な専門知識と応用能力を身に付けている。 ☐ 4. 看護実践の改善・開発に必要となる研究マインドと、医療看護を対象とする看護研究の遂行能力を身に付けている。								
【授業時間外の学習】 （事前・事後学習）	毎回の講義・演習内容に関連した内容を事前学習し、看護技術支援、看護・口腔医療連携に関連する事例やプレゼンテーションに関する準備を行う。事後は、自己の学習内容と課題を明らかにし、論文作成およびその後の看護・口腔医療連携、歯科専門家としての口腔ケアに生かせるポートフォリオとしてまとめる。								
【課題に対するフィードバック】	レポートおよび成果物へのコメントを返却する。								
【評価方法】	レポート50%、プレゼンテーション30%、授業中の発言、ディスカッション時の積極性など20%								
【教科書】	水田祥代・窪田恵子監修、授業・演習、臨床・在宅現場でも、すぐに使える！看護で教える最新の口腔ケア、大道学館出版部、2020.2.								
【参考図書】	適宜、文献や資料を配布する。								

【授業計画】

回数	担当教員	授業内容	事前学習	事後学習
1 ・ 2	晴佐久悟	ユニット1：看護・口腔医療連携研究1 G I O：看護・口腔医療連携に関する研究の内容について説明できる。 S B O s：看護・口腔医療連携に関する研究の目的・意義、研究手法、結果と考察について意見を述べ、討議することができる。 (方法：講義、抄読会、討議)	授業で取り上げるテーマに即して、文献、書籍を読み、討議できるように疑問点をまとめておく。	授業での討議を振り返り、自己の課題を明確にする。
3 ・ 4	晴佐久悟	ユニット2：看護・口腔医療連携研究2 G I O：看護口腔アセスメント・口腔ケアに関する研究の内容について説明できる。 S B O s：看護の口腔アセスメント・口腔ケアに関する研究を通して、看護の口腔アセスメント・口腔ケアの実態・問題点について意見を述べ、討議することができる。 (方法：講義、抄読会、討議)	授業で取り上げるテーマに即して、文献、書籍を読み、討議できるように疑問点をまとめておく。	授業での討議を振り返り、自己の課題を明確にする。
5 ・ 6 ・ 7 ・ 8 ・ 9	晴佐久悟	ユニット3：看護・口腔医療連携研究3 G I O：自分が実施する口腔に関する研究の内容について説明できる。 S B O s：自分が実施しようと考えている口腔に関する研究についての背景・意義についてまとめ、討議することができる。 (方法：講義、討議、レポート作成)	授業で取り上げるテーマに即して、文献、書籍を読み、討議できるように疑問点をまとめておく。	授業での討議を振り返り、自己の課題を明確にする。
10 ・ 11 ・ 12 ・ 13 ・ 14	晴佐久悟	ユニット4：看護・口腔医療連携研究4 G I O：自分が実施する口腔に関する研究の実施方法について説明できる。 S B O s：自分が実施しようと考えている口腔に関する研究についての方法、統計分析法、予想される結果についてまとめ、討議することができる。 (方法：講義、討議、レポート作成)	授業で取り上げるテーマに即して、文献、書籍を読み、討議できるように疑問点をまとめておく。	授業での討議を振り返り、自己の課題を明確にする。
15 ・ 16 ・ 17 ・ 18 ・ 19 ・ 20	晴佐久悟	ユニット5：看護・口腔医療連携研究5 G I O：自分が実施する口腔に関する研究の内容について研究計画書を作成できる。 S B O s：自分が実施しようと考えている口腔に関する研究についての研究計画書を作成し、倫理申請書提出に備えることができる。 (方法：講義、討議、レポート作成)	授業で取り上げるテーマに即して、文献、書籍を読み、討議できるように疑問点をまとめておく。	授業での討議を振り返り、自己の課題を明確にする。
21 ・ 22	内藤徹	ユニット6：看護・口腔医療連携実践1 G I O：看護・口腔医療連携に必要な歯科の専門知識について説明できる。 S B O s：基礎疾患を有する患者への対応について理解する。 1) 高齢者に多い口腔疾患の特徴について理解する。 2) 口腔アセスメントの内容を理解する。 3) 口腔アセスメントの実践を理解できる。 (方法：講義、討議)	授業で取り上げるテーマに即して、文献、書籍を読み、討議できるように疑問点をまとめておく。	授業での討議を振り返り、自己の課題を明確にする。
23 ・ 24	内藤徹	ユニット7：看護・口腔医療連携実践2 G I O：病院や高齢者施設において、歯科医療従事者が実施している診療内容、看護との連携内容について説明できる。 S B O s：要介護高齢者への対応について説明できる。 1) 高齢者の歯科治療について理解する。 2) 義歯・補綴物の構造、作製・修理・清掃法について理解する。 (方法：講義、討議)	授業で取り上げるテーマに即して、文献、書籍を読み、討議できるように疑問点をまとめておく。	授業での討議を振り返り、自己の課題を明確にする。
25 ・ 26	山下久恵、 門司真由美	ユニット8：研究を知る(1) G I O：口腔(アセスメント・ケア)に関する研究について、概観する。 S B O s： 1) 口腔(アセスメント・ケア)に関する研究論文を検索し、精読し、考えを述べることができる。 (方法：講義、演習)	授業で取り上げる看護技術に関する、文献、資料等を読み、動画で技術について事前学習しておく。	授業と演習での技術演習を振り返り、自己の課題を明確にする。

回数	担当教員	授業内容	事前学習	事後学習
27 ・ 28	山下久恵、 門司真由美	ユニット9：研究を知る（2） G I O：口腔（審美・食欲・摂食・嚥下）に関する研究について、概観する。 S B O s： 1）口腔（審美・食欲・摂食・嚥下）に関する研究論文を検索し、精読し、考えを述べることができる。 （方法：講義、演習）	授業で取り上げる看護技術に関する、文献、資料等を読み、動画で技術について事前学習しておく。	授業と演習での技術演習を振り返り、自己の課題を明確にする。
29 ・ 30	晴佐久悟	ユニット10：看護・口腔医療連携のあり方に関する考察 G I O：看護・口腔医療連携に関する業務内容・研究の内容をまとめその重要性について説明できる。 S B O s： 1）看護・口腔医療連携に関する業務内容の目的・意義について意見を述べ、討議することができる。 2）現在実施している研究の目的・意義について意見を述べ、討議することができる。 （方法：講義、実習、討議）	授業で取り上げるテーマに即して、文献、書籍を読み、討議できるように疑問点をまとめておく。	授業での討議を振り返り、自己の課題を明確にする。

科目名（科目NO.）	看護病態特論（MN013215）					時間数	60 時間		
学年	1	科目区分	選択	単位数	4	授業形態	講義	開講期	通年
評価責任者	荒川満枝								
担当教員名	荒川満枝、秋好久美子、松尾和枝								
【授業の概要】	看護の対象となる人のwell-beingを目指して、生活習慣病や感染症などを含む様々な疾患の病態の理解、罹患状況、セルフケアの現状、予防活動、看護ケアの状況などに関する各種論文や文献を読み解き、自身の考えを形成する。またその研究手法に関する理解を深め、特別研究のテーマ探索の方向性を決定する準備ともなる。								
【到達目標】	- 生活習慣病に関する国内および世界の動向を説明できる。 - 生活習慣病に関する看護研究の動向を知り、自身の研究課題との関連を説明できる。 - 感染症または医療関連感染の国内および世界の動向を説明できる。 - 感染症または医療関連感染に関する看護研究の動向を知り、自身の研究課題との関連を説明できる。 - 学生自身の研究テーマとなる疾患の国内および世界の動向を説明できる。 - 学生自身の研究テーマとなる疾患に関する看護研究の動向を知り、自身の研究課題との関連を説明できる。								
【授業の方法】	講義、演習、文献を通して批判的思考による発表およびディスカッションを行い、レポートを提出する。								
【ディプロマ・ポリシーとの関連】 □に✓する ※複数選択可	☐ 1. well-being を基盤にした健康支援と口腔に対する看護実践の質的向上に貢献するケアを提案・推進する能力を身に付けている。 ☒ 2. 看護活動に関する最新の知見や動向に関する理解と看護活動における俯瞰的なものの見方や実践的な応用能力を身に付けている。 ☐ 3. 看護の対象の特性や看護の場面に応じた現象を科学的に探究し、臨床教育・継続教育で実践するための高度な専門知識と応用能力を身に付けている。 ☒ 4. 看護実践の改善・開発に必要な研究マインドと、医療看護を対象とする看護研究の遂行能力を身に付けている。								
【授業時間外の学習】 （事前・事後学習）	プレゼンテーションに関する準備を行う。								
【課題に対するフィードバック】	レポートおよびプレゼンテーションへのコメントは授業中に行う。								
【評価方法】	レポート30%、プレゼンテーション70%（授業中の発言、ディスカッションを踏まえて評価する）								
【教科書】	特に指定しない。 適宜、文献や資料を配布する。								
【参考図書】	小熊恵二ら（編集）：シンプル微生物学，南江堂，第6版，2018. 川端重忠ら（編集）：口腔微生物学・免疫学，医歯薬出版，第4版，2016. その他、講義の際に提示する。								

【授業計画】

回数	担当教員	授業内容	事前学習	事後学習
1 ・ 2 ・ 3	秋好久美子	ユニット1：生活習慣病の動向 G I O：生活習慣病の国内および世界の動向について説明できる。 S B O s：各種資料を読み解き方を身に着け、データについての意見や疑問を述べることができる。 (方法：講義、抄読会、討議)	授業で取り上げるテーマに即して、文献、書籍を読み、討議できるように疑問点をまとめておく。	授業での討議を振り返り、自己の課題を明確にする。
4 ・ 5 ・ 6 ・ 7	秋好久美子	ユニット1：生活習慣病に関する研究1 G I O：生活習慣病に関する研究について説明できる。 S B O s：生活習慣病に関する研究を自ら検索して収集し、論文を読み解くことができる。 (方法：講義、抄読会、討議)	授業で取り上げるテーマに即して、文献、書籍を読み、討議できるように疑問点をまとめておく。	授業での討議を振り返り、自己の課題を明確にする。
8 ・ 9 ・ 10	秋好久美子	ユニット1：生活習慣病に関する研究2 G I O：生活習慣病に関する研究について説明できる。 S B O s：生活習慣病に関する研究で引用・参照されていた先行研究や研究方法について説明し、討議することができる。 (方法：講義、演習、抄読会、討議)	授業で取り上げるテーマに即して、文献、書籍を読み、討議できるように疑問点をまとめておく。	授業での討議を振り返り、自己の課題を明確にする。
11 ・ 12 ・ 13 ・ 14	荒川満枝	ユニット2：感染症、医療関連感染の動向 G I O：感染症・医療関連感染に関する国内および世界の動向について説明できる。 S B O s：感染症・医療関連感染に関する各種資料を読み解き方を身に着け、データについての意見や疑問を述べることができる。 (方法：講義、抄読会、討議)	授業で取り上げるテーマに即して、文献、書籍を読み、討議できるように疑問点をまとめておく。	授業での討議を振り返り、自己の課題を明確にする。
15 ・ 16 ・ 17	荒川満枝	ユニット2：感染症、医療関連感染に関する研究1 G I O：感染症・医療関連感染に関する研究について説明できる。 S B O s：感染症・医療関連感染に関する研究を自ら検索して収集し、論文を読み解くことができる。 (方法：講義、抄読会、討議)	授業で取り上げるテーマに即して、文献、書籍を読み、討議できるように疑問点をまとめておく。	授業での討議を振り返り、自己の課題を明確にする。
18 ・ 19 ・ 20	荒川満枝	ユニット2：感染症、医療関連感染に関する研究2 G I O：感染症・医療関連感染に関する研究について説明できる。 S B O s：感染症・医療関連感染に関する研究で引用・参照されていた先行研究や研究方法について説明し、討議することができる。 (方法：講義、抄読会、討議)	授業で取り上げる看護技術に関する、文献、資料等を読み、動画で技術について事前学習しておく。	授業と演習での技術演習を振り返り、自己の課題を明確にする。
21 ・ 22 ・ 23 ・ 24	松尾和枝	ユニット3：学生の研究テーマに沿った疾患の動向 G I O：何らかの疾患や術式などの国内および世界の内容について説明できる。 S B O s：何らかの疾患や術式などに関する各種資料を読み解き方を身に着け、データについての意見や疑問を述べることができる。 (方法：講義、演習、抄読会、討議)	授業で取り上げる看護技術に関する、文献、資料等を読み、動画で技術について事前学習しておく。	授業と演習での技術演習を振り返り、自己の課題を明確にする。
25 ・ 26 ・ 27	松尾和枝	ユニット2：学生の研究テーマに沿った疾患に関する研究1 G I O：何らかの疾患や術式などに関する研究について説明できる。 S B O s：何らかの疾患や術式などに関する研究を自ら検索して収集し、論文を読み解くことができる。 (方法：講義、演習、抄読会、討議)	授業で取り上げる看護技術に関する、文献、資料等を読み、動画で技術について事前学習しておく。	授業と演習での技術演習を振り返り、自己の課題を明確にする。
28 ・ 29 ・ 30	松尾和枝	ユニット2：学生の研究テーマに沿った疾患に関する研究2 G I O：何らかの疾患や術式などに関する研究について説明できる。 S B O s：何らかの疾患や術式などに関する研究引用・参照されていた先行研究や研究方法について説明し、討議することができる。 (方法：講義、演習、抄読会、討議)	授業で取り上げる看護技術に関する、文献、資料等を読み、事前学習しておく。	授業での学びを振り返り、自己の課題を明確にする。

科目名	成人看護特論 (MN013202)					時間数	60 時間		
学年	1	科目区分	選択	単位数	4	授業形態	講義	開講期	通年
評価責任者	岩本利恵								
担当教員名	岩本利恵、構木晶子、内田荘平、秋永和之								
【授業の概要】	成人各期の成長や発達の課題を考慮し、生活や健康の特徴、疾患や健康問題についての理解を深めるとともに、成人の特徴に基づいた看護の考え方と援助の方法についての理解を深める。								
【到達目標】	1. 成人期に多く発症する循環器病について医学的見地から専門的に理解し、看護実践との関連性について述べるができる。 2. 成人期における運動器疾患および術後看護支援について研究動向から理解を深め説明できる。 3. 難病をもつ対象者の患者力、ヘルスリテラシー、意思決定とその支援について、現状の理解と課題を文献を用いて明確にし、説明できる。 4. がんの看護の変遷について医療と看護の歩みから理解し、がんサバイバーシップと成人期のがん看護の特徴を述べるができる。 5. 成人期の終末期にある対象者と家族の自分らしく生きるための看護について理解を深め説明することができる。 6. 周麻酔期における治療管理と看護支援について専門的に理解し、説明できる。								
【授業の方法】	講義を中心にレポートの提出、ディスカッション・発表を行う。								
【ディプロマ・ポリシーとの関連】 □に✓する ※複数選択可	☒ 1. well-being を基盤にした健康支援と口腔に対する看護実践の質的向上に貢献するケアを提案・推進する能力を身に付けている。 ☒ 2. 看護活動に関する最新の知見や動向に関する理解と看護活動における俯瞰的なものの見方や実践的な応用能力を身に付けている。 ☒ 3. 看護の対象の特性や看護の場面に応じた現象を科学的に探究し、臨床教育・継続教育で実践するための高度な専門知識と応用能力を身に付けている。 ☐ 4. 看護実践の改善・開発に必要となる研究マインドと、医療看護を対象とする看護研究の遂行能力を身に付けている。								
【授業時間外の学習】 (事前・事後学習)	自身の専門領域における倫理に関する事例のプレゼンテーション準備と毎回の講義内容をリンクさせながら学習を進めてほしい。倫理の問題を専門用語を適切に使用して、論理的に論じられるよう、参考文献等で準備をすること。								
【課題に対するフィードバック】	レポートにコメントをつけて返却する。								
【評価方法】	プレゼンテーション 20%、レポート 50%、授業中の発言、グループディスカッションなどの積極性等30%								
【教科書】	必要時提示する。								
【参考図書】	その都度提示する。								

【授業計画】

回数	担当教員	授業内容	事前学習	事後学習
1 ・ 2 ・ 3	橋本晶子	ユニット1：成人期における循環器病 G I O：成人期における循環器病リスクおよび看護支援に関して理解を深める。 S B O s：成人期の日常生活に関連する循環器病リスクと予防的看護援助方法について事例を通して説明できる。 (方法：講義、討議)	プレゼンテーションできるように資料を作成し準備する。	リアクションペーパーにまとめる。
4 ・ 5 ・ 6	橋本晶子	ユニット2：成人期における各循環器疾患および看護支援1 G I O：成人期における各循環器疾患および看護支援に関して理解を深める。 S B O s：成人期における各循環器疾患に対して実践する看護支援に関して事例を通して説明できる。(心電図、虚血性心疾患、心不全、不整脈、動脈硬化など) (方法：講義、討議)	プレゼンテーションできるように資料を作成し準備する。	リアクションペーパーにまとめる。
7 ・ 8	秋永和之	ユニット2：成人期における各運動器疾患および術後看護支援2 G I O：成人期における各運動器疾患に関する術後看護支援に関して先行研究を通して理解を深める。 S B O s：成人期における運動器疾患(変形性膝関節症)および術後(人工膝関節置換術)看護支援に関連する文献を熟読し、批判的に評価し討論できる。 (方法：講義、グループディスカッション)	変形性膝関節症(人工膝関節置換術)に関する資料を作成し準備する。	ユニットでの学びを基にレポートにまとめる。
9 ・ 10	岩本利恵	ユニット3：成人期の慢性疾患・難病をもつ対象者の患者力 G I O：難病をもつ対象者の患者力の理解を深める。 S B O s： 1) 難病をもつ対象者の患者力について説明できる。 2) 難病をもつ対象者の患者力に関する課題について説明できる。 (方法：講義、グループディスカッション)	慢性期疾患、難病をもつ対象者の患者力について文献を収集する。	慢性期疾患、難病患者の患者力を向上する支援についてレポートにまとめる。
11 ・ 12	岩本利恵	ユニット3：成人期の慢性疾患・難病をもつ対象者のヘルスリテラシー G I O：難病をもつ対象者のヘルスリテラシーの理解を深める。 S B O s： 1) 難病をもつ対象者のヘルスリテラシーについて説明できる。 2) 難病をもつ対象者のヘルスリテラシーに関する課題について説明できる。 (方法：講義、グループディスカッション)	慢性期疾患、難病をもつ対象者のヘルスリテラシーについて文献を収集する。	慢性期疾患、難病をもつ対象者のヘルスリテラシーについてレポートにまとめる。
13 ・ 14 ・ 15	岩本利恵	ユニット4：成人期の慢性疾患・難病をもつ対象者の意思決定 G I O：慢性疾患、難病をもつ対象者の自分らしく生きる力・患者力を発揮することができる意思決定を検討することができる。 S B O s： 1) 慢性疾患、難病をもつ対象者の意思決定について検討することができる。 2) 意思決定におけるコミュニケーションについて文献をもとに検討することができる。 3) 意思決定についてディスカッションすることができる。 4) デイシジョンエイドを調べ検討することができる。 (方法：グループディスカッション)	事例をもとに、意思決定を考える。	事例をもとに、意思決定をレポートにまとめる。
16 ・ 17	岩本利恵	ユニット5：がん看護の変遷 G I O：がん看護について理解を深める S B O s： 1) 日本のがん医療と看護の歩みについて説明できる。 (1) 治療法の進歩と看護の歩み (2) 在宅医療とがん看護 2) がんサバイバーシップの概念と成人期のがん看護の特徴について事例をもとにディスカッションし説明できる。 (方法：講義、討議)	プレゼンテーションできるように資料を作成し準備する。	リアクションペーパーにまとめる。

回数	担当教員	授業内容	事前学習	事後学習
18 ・ 19 ・ 20	岩本利恵	ユニット6：成人期の終末期にある対象者と家族の看護 G I O：成人期の終末期看護について理解を深める S B O s： 1) 終末期の看護の全人的苦痛とその看護について文献から検討し、説明することができる。 2) 終末期にある対象者と家族が自分らしく生きるための看護について理解し、説明できる。 (方法：講義、討議)	事例をもとに、終末期看護を考える。	事例をもとに、終末期看護をレポートにまとめる。
21 ・ 22	内田荘平	ユニット8：周麻酔期における治療管理と看護支援 G I O：周麻酔期に関連する有害事象が治療管理に及ぼす影響について理解を深める。 S B O s： 1) 全身麻酔、局所麻酔に伴う生体反応について説明できる。 2) 全身麻酔、局所麻酔に関連する合併症・偶発症が、術中・術後管理の影響について説明できる。 3) 周麻酔期の感染管理、医療安全に必要な知識について説明できる。 (方法：講義、討議)	プレゼンテーションできるように資料を作成し準備する。	リアクションペーパーにまとめる。
23 ・ 24	内田荘平	ユニット8：周麻酔期における治療管理と看護支援 G I O：周麻酔期に関連する有害事象が治療管理に及ぼす影響について理解を深める。 S B O s： 1) 手術環境について説明できる。 2) 手術環境に伴う生体反応が、術中・術後管理に及ぼす影響を説明できる。 3) 手術環境に起因する感染管理、医療安全に必要な知識について説明できる。 (方法：講義、討議)	プレゼンテーションできるように資料を作成し準備する。	リアクションペーパーにまとめる。
25 ・ 26	内田荘平	ユニット8：周麻酔期における治療管理と看護支援 G I O：周麻酔期に関連する有害事象が治療管理に及ぼす影響について理解を深める。 S B O s： 1) 手術体位に伴う生体反応について説明できる 2) 手術体位に関連する合併症・偶発症が、術中・術後管理に及ぼす影響について説明できる。 3) 手術体位に起因する感染管理、医療安全に必要な知識について説明できる。 (方法：講義、討議)	プレゼンテーションできるように資料を作成し準備する。	リアクションペーパーにまとめる。
27 ・ 28	内田荘平	ユニット8：周麻酔期における治療管理と看護支援 G I O：周麻酔期に関連する有害事象が治療管理に及ぼす影響について理解を深める。 S B O s： 1) 医療機器と定義について説明できる。 2) 医療機器の安全管理について説明できる。 3) 医療機器の洗浄・滅菌のガイドラインについて説明できる 4) 医療機器に関連するトラブルが、術中・術後管理に及ぼす影響について説明できる。 (方法：講義、討議)	プレゼンテーションできるように資料を作成し準備する。	リアクションペーパーにまとめる。
29 ・ 30	内田荘平	ユニット8：周麻酔期における治療管理と看護支援 G I O：周麻酔期に関連する有害事象が治療管理に及ぼす影響について理解を深める。 S B O s：高度看護実践者として責務を果たすため、周麻酔期に関連する合併症・偶発症が術後、回復期に及ぼす影響を、経験事例から振り返り検証できる。 (方法：講義、討議)	プレゼンテーションできるように資料を作成し準備する。	ユニットでの学びを基にレポートにまとめる。

科目名（科目NO.）	高齢者看護特論（MN013203）					時間数	60時間		
学年	1	科目区分	選択	単位数	4	授業形態	講義	開講期	通年
評価責任者	宮園真美								
担当教員名	宮園真美								
【授業の概要】	高齢者の日常生活の中で多くみられる代表的な障害を取り上げて考察することにより、高齢者に対する理解を深めるとともに、高齢者に特有な徴候や疾患を取り上げ、病態や病状の把握の仕方や看護の方法についての理解を深める。具体的には、高齢者の睡眠障害の特徴と高齢者に多く認められる不眠への援助や安眠のためのケアについて考察するとともに、多疾患を有する高齢の虚血性心疾患患者への退院後介入の時期や方法について考察する。								
【到達目標】	1. 高齢者の健康問題の特徴と考え方を理解する。 2. 高齢者の代表的な疾患、特に心疾患の病態を中心とした看護展開を理解する。 3. 高齢者の嚥下機能を含め、口腔機能低下と看護に関して理解する。 4. 高齢者の活動と休息について、不眠、安眠を中心に理解する。 5. 高齢者の退院支援方法について理解する。								
【授業の方法】	講義を中心に、学生がプレゼンテーション、ディスカッションを行い、学びを深め、レポートにまとめる。								
【ディプロマ・ポリシーとの関連】 □に✓する ※複数選択可	☒ 1. well-being を基盤にした健康支援と口腔に対する看護実践の質的向上に貢献するケアを提案・推進する能力を身に付けている。 ☒ 2. 看護活動に関する最新の知見や動向に関する理解と看護活動における俯瞰的なものの見方や実践的な応用能力を身に付けている。 ☒ 3. 看護の対象の特性や看護の場面に応じた現象を科学的に探究し、臨床教育・継続教育で実践するための高度な専門知識と応用能力を身に付けている。 ☐ 4. 看護実践の改善・開発に必要なとなる研究マインドと、医療看護を対象とする看護研究の遂行能力を身に付けている。								
【授業時間外の学習】 （事前・事後学習）	各課題に関するプレゼンテーション準備と毎回の講義内容にリンクさせた学習を行う。各テーマに関して、論理的に論じられるよう、参考文献等で準備をする。事後は、学びをレポートにまとめる。								
【課題に対するフィードバック】	レポートにコメントをつけて返却する。								
【評価方法】	レポート 30%、プレゼンテーション 50%、討議での発言の適格性、討論への積極性20%								
【教科書】	老年医学テキスト 改訂第3版、メジカルビュー社 大内 尉義（監修）、藤村 昭夫（編集）、高齢者診療、じほう								
【参考図書】	Gerontological Nursing 8th Edition, Handbook of Gerontology: Evidence Based Approaches to Theory, Practice, and Policy. Essentials of Gerontological Nursing 1st Edition, by Meredith Wallace PhD ARPN-BC.								

【授業計画】

回数	担当教員	授業内容	事前学習	事後学習
1 ・ 2 ・ 3 ・ 4	宮園真美	ユニット1：高齢者の機能変化 G I O：高齢者の健康と加齢に伴う身体、心理、社会的変化を理解を深める。 S B O s： 1) 高齢者の心身機能の特徴および社会的環境について説明できる。 2) 高齢者の心身機能の低下、健康問題および心理社会的変化について事例、討議の中で説明できる。 (方法：講義 討議)	課題資料に関して事前学習し自己の意見をまとめておく。	リアクションペーパーにまとめる。
5 ・ 6 ・ 7 ・ 8	宮園真美	ユニット2：高齢者の健康問題 G I O：高齢者の健康問題の特徴と考え方を理解を深める。 S B O s： 1) 高齢者の心身機能低下および疾患の特徴を説明できる。 2) 高齢者への看護展開について事例を通して説明できる。 (方法：講義 討議)	課題資料に関して事前学習し自己の意見をまとめておく。	レポート提出。
9 ・ 10 ・ 11 ・ 12	宮園真美	ユニット3：高齢者への看護援助 G I O：高齢者の代表的な疾患、特に心疾患の病態を中心とした看護展開を理解する。 S B O s： 1) 高齢者の代表的な疾患と特徴について説明できる。 2) 心疾患の事例を通して高齢者への看護援助について事例および討議の中で説明できる。 (方法：講義 討議)	課題資料に関して事前学習し自己の意見をまとめておく。	リアクションペーパーにまとめる。
13 ・ 14 ・ 15 ・ 16	宮園真美	ユニット4：高齢者の健康的な生活援助 G I O：高齢者の睡眠と活動への看護介入について先行研究を通して理解を深める。 S B O s： 1) 高齢者の睡眠と活動に対する看護介入について説明できる。 2) 高齢者の健康的な生活を維持するための先行研究について文献、事例を通して説明できる。 (方法：講義 討議)	課題資料に関して事前学習し自己の意見をまとめておく。	レポート提出。
17 ・ 18 ・ 19 ・ 20	宮園真美	ユニット5：高齢者の口腔の健康と看護 G I O：高齢者の嚥下機能を含め、口腔機能低下と看護に関して理解を深める。 S B O s： 1) 高齢者の口腔機能低下に関するメカニズムを説明できる。 2) 高齢者の嚥下機能及び疾患との関連性について説明できる。 3) 高齢者の口腔機能低下と看護の展開に関して、事例を通して検討し、考えを述べることができる。 (方法：講義 討議)	課題資料に関して事前学習し自己の意見をまとめておく。	リアクションペーパーにまとめる。
21 ・ 22 ・ 23 ・ 24 ・ 25	宮園真美	ユニット6：高齢者の活動と休息 G I O：高齢者の活動と休息について、不眠、安眠を中心に理解する。 S B O s： 1) 高齢者の活動性低下について心身機能変化の視点から説明できる。 2) 高齢者の睡眠の質や睡眠パターンについて説明できる。 3) 高齢者への活動と睡眠への看護介入について事例を通してディスカッションし、考えを述べることができる。 (方法：講義 討議)	課題資料に関して事前学習し自己の意見をまとめておく。	リアクションペーパーにまとめる。
26 ・ 27 ・ 28 ・ 29 ・ 30	宮園真美	ユニット7：高齢者の地域生活支援 G I O：高齢者の退院支援と地域生活支援について、事例の看護展開事例をもとに理解を深める。 S B O s： 1) 複数疾患を持ち、地域生活をする高齢者の看護展開について事例を基に説明できる。 2) 地域で生活をする健康高齢者の看護予防活動について事例を通してディスカッションし、説明できる。 (方法：講義 討議)	課題資料に関して事前学習し自己の意見をまとめておく。	レポート提出。

科目名	精神看護特論 (MN013204)					時間数	60時間		
学年	1	科目区分	選択	単位数	4	授業形態	講義	開講期	通年
評価責任者	原やよい								
担当教員名	原やよい								
【授業の概要】	精神障害者を含め対象者の精神的健康レベルに応じた看護について、実践例を取り上げ考察することにより、精神看護の意義と役割について理解する。また、精神看護の質を高める取組み方法について学習する。具体的には、現代社会における精神的健康問題を学び、その上で、対象者の精神的健康レベルに応じた看護について理解を深める。精神看護の質を高めるためのリーダーシップや看護師教育、認知行動療法活用の看護師教育について学ぶ。精神障害者の口腔の健康問題に関する実態と口腔ケアの質向上にむけた取組みについて考察する。								
【到達目標】	1. 現代社会における精神的健康問題およびその対策と限界が説明できる。 2. 対象者の精神的健康レベルに応じた看護について考察できる。 3. 精神看護の質を高めるためのリーダーシップについて説明できる。 4. 精神看護実践能力を高めるための看護師教育について説明できる。 5. 効果的な認知行動療法活用に向けた看護師教育方法が説明できる。 6. 質の高い口腔ケアに向けた看護師教育方法が説明できる。								
【授業の方法】	講義や文献を通して、批判的思考による発表・ディスカッションを行い、レポートを提出する。								
【ディプロマ・ポリシーとの関連】 □に✓する ※複数選択可	☐ 1. well-being を基盤にした健康支援と口腔に対する看護実践の質的向上に貢献するケアを提案・推進する能力を身に付けている。 ☒ 2. 看護活動に関する最新の知見や動向に関する理解と看護活動における俯瞰的なものの見方や実践的な応用能力を身に付けている。 ☒ 3. 看護の対象の特性や看護の場面に応じた現象を科学的に探究し、臨床教育・継続教育で実践するための高度な専門知識と応用能力を身に付けている。 ☐ 4. 看護実践の改善・開発に必要な研究マインドと、医療看護を対象とする看護研究の遂行能力を身に付けている。								
【授業時間外の学習】 (事前・事後学習)	授業に関する内容を事前学習し、精神看護学に関連する事例やプレゼンテーションに関する準備を行う。事後は、自己の学習内容と課題を明らかにし、論文作成およびその後の看護に生かせるポートフォリオとしてまとめる。								
【課題に対するフィードバック】	レポートおよび成果物に対してコメントをつけて返却する。								
【評価方法】	レポート 30%、プレゼンテーション 50%、討論への積極性など 20%								
【教科書】	必要時提示する。資料配布。								
【参考図書】	1. 日本精神科看護協会/末安民生/西池絵衣子,「精神科看護事例検討ファシリテーション入門」,中山書店,2019. 2. 岡田佳詠(編著),「認知行動療法に基づく精神看護過程 よくわかる認知行動療法の基本と進め方」,中央法規,2016. 3. 齊藤嘉宏(編),「認知行動療法を用いた精神看護実習ガイド～基本から講義・実習・施設・地域をつなぐ～」,看護の科学社,2019. 4. 晴山婦美子/塚本敦美/坂本まゆみ(著),「看護に役立つ口腔ケアテクニック～基本手技から困ったときの一工夫まで～」第2版,医歯薬出版,2019.								

【授業計画】

回数	担当教員	授業内容	事前学習	事後学習
1 ・ 2	原やよい	ユニット1：現代社会における精神的健康問題 G I O：現代社会における精神的健康問題について理解を深める。 S B O s： 1）現代社会における精神的健康問題について説明できる。 2）文献を基に現代社会における精神的健康問題の要因について分析できる。 (方法：講義、討議)	授業で取り上げるテーマに即して、文献、書籍を読み、討議できるように疑問点をまとめておく。	授業での討議を振り返り、自己の課題を明確にする。
3 ・ 4 ・ 5	原やよい	ユニット2：現代社会における精神的健康問題の対策と限界 G I O：現代社会における精神的健康問題に対する対策と限界について理解を深める。 S B O s： 1）文献を基に、現代社会における精神的健康問題の対策を説明できる。 2）文献を基に、現代社会における精神的健康問題対策の阻害要因について説明できる。 3）文献を基に、現代社会における精神的健康問題対策の限界を説明できる。 (方法：講義、討議)	授業で取り上げるテーマに即して、文献、書籍を読み、討議できるように疑問点をまとめておく。	授業での討議を振り返り、自己の課題を明確にする。
6 ・ 7 ・ 8	原やよい	ユニット3：対象者の精神的健康レベルのアセスメント G I O：対象者の精神的健康レベルのアセスメント方法の理解を深める。 S B O s： 1）対象者の精神的健康レベルのアセスメント方法について説明できる。 2）事例をもとに、精神的健康レベルのアセスメントについて考察できる。 (方法：講義、討議)	授業で取り上げるテーマに即して、文献、書籍を読み、討議できるように疑問点をまとめておく。	授業での討議を振り返り、自己の課題を明確にする。
9 ・ 10 ・ 11 ・ 12	原やよい	ユニット4：対象者の精神的健康レベルに応じた看護 G I O：対象者の精神的健康レベルに応じた看護について理解を深める。 S B O s： 1）対象者の精神的健康レベルに応じた看護について説明できる。 2）対象者の精神的健康レベルに応じた看護の課題について考察できる。 (方法：講義、討議)	授業で取り上げるテーマに即して、文献、書籍を読み、討議できるように疑問点をまとめておく。	授業での討議を振り返り、自己の課題を明確にする。
13 ・ 14 ・ 15 ・ 16	原やよい	ユニット5：精神看護の質を高めるためのリーダーシップ G I O：精神看護の質を高めるためのリーダーシップについて理解を深める。 S B O s： 1）精神看護の質を高めるためのリーダーシップについて説明できる。 2）精神看護の質を高めるため、リーダーに求められる具体的な役割が説明できる。 3）精神看護の質を高めるため、リーダーシップを発揮する場合の留意点について説明できる。 (方法：講義、討議)	授業で取り上げるテーマに即して、文献、書籍を読み、討議できるように疑問点をまとめておく。	授業での討議を振り返り、自己の課題を明確にする。

回数	担当教員	授業内容	事前学習	事後学習
17 ・ 18 ・ 19 ・ 20	原やよい	ユニット6：精神看護実践能力を高めるための看護師教育 G I O：精神看護を高める看護師教育について理解を深める。 S B O s： 1) 精神看護実践能力を高める看護師教育方法が説明できる。 2) 精神看護実践能力を高める看護師教育の計画立案方法が説明できる。 3) 精神看護実践能力を高める看護師教育における留意点が説明できる。 (方法：講義、討議)	授業で取り上げるテーマに即して、文献、書籍を読み、討議できるように疑問点をまとめておく。	授業での討議を振り返り、自己の課題を明確にする。
21 ・ 22 ・ 23 ・ 24	原やよい	ユニット7：認知行動療法活用に向けた看護師教育 G I O：効果的な認知行動療法活用に向けた看護師教育方法について理解を深める。 S B O s： 1) 効果的な認知行動療法活用に向けた看護師教育方法について説明できる。 2) 効果的な認知行動療法活用に向けた看護師教育の計画立案方法が説明できる。 3) 効果的な認知行動療法活用に向けた看護師教育における留意点が説明できる。 (方法：講義、討議)	授業で取り上げるテーマに即して、文献、書籍を読み、討議できるように疑問点をまとめておく。	授業での討議を振り返り、自己の課題を明確にする。
25 ・ 26 ・ 27 ・ 28 ・ 29	原やよい	ユニット8：認知行動療法活用の模擬体験 G I O：模擬体験を通し認知行動療法活用について理解を深める。 S B O s： 1) 認知行動療法活用に向けた看護師教育の模擬体験ができる。 2) 模擬体験をもとに、認知行動療法活用に向けた看護師教育について考察できる。 (方法：講義、討議、発表)	授業で取り上げるテーマに即して、文献、書籍を読み、討議できるように疑問点をまとめておく。	授業での討議を振り返り、自己の課題を明確にする。
30	原やよい	ユニット9：精神障害者に対する質の高い口腔ケアに向けた看護師教育 G I O：精神障害者に対する質の高い口腔ケアに向けた看護師教育について理解を深める。 S B O s： 1) 精神障害者に対する質の高い口腔ケアに向けた看護師教育方法が説明できる。 2) 精神障害者に対する質の高い口腔ケアに向けた看護師教育の留意点が説明できる。 (方法：講義、討議、発表)	授業で取り上げるテーマに即して、文献、書籍を読み、討議できるように疑問点をまとめておく。	授業での討議を振り返り、自己の課題を明確にする。

科目名	母子看護特論 (MN013205)					時間数	60 時間		
学年	1	科目区分	選択	単位数	4	授業形態	講義	開講期	通年
評価責任者	飯野英親								
担当教員名	飯野英親、田出美紀、青野広子								
【授業の概要】	母性の健康と看護及び新生児に対する看護に関する知識の理解を深めるとともに、健康問題のある小児とその家族に対する看護に関する知識の理解を深める。								
【到達目標】	1. 文献を用いて、出生前診断が両親の意思決定に与える影響と家族アセスメントについて説明できる。 2. 先天異常や染色体異常などによる健康障害をもつ子どもとその家族への看護支援について説明できる。 3. 先行研究を分析し、女性とその家族のWellnessにおける課題を捉え、説明できる。 4. 性と生殖をめぐる現状と課題について、最新の研究成果に基づいて解説することができる。 5. 女性のライフサイクル各期における心身の変化と口腔の健康との関連を理解し、母子看護の視点から口腔ケアの重要性と支援のあり方を説明できる。 6. 両親学級における妊産褥婦とその家族への支援を検討し、実施することができる。								
【実務経験を生かした教育内容】	1) 大学病院遺伝診療部での臨床経験を活かし、染色体異常症、および奇形症候群の子どもと家族への看護に関する研究を継続してきた。 2) 大学病院分娩部で助産師として臨床を経験しており、開業後、地域でも子育て支援を実践してきた。また、両親への出産前教育の構築、IGTを用いた教育活動等についても実践・研究している。								
【授業の方法】	講義を中心にレポート、ディスカッション・発表を行う。両親学級は参加し、支援を実践する。								
【ディプロマ・ポリシーとの関連】 □に✓する ※複数選択可	☒ 1. well-being を基盤にした健康支援と口腔に対する看護実践の質的向上に貢献するケアを提案・推進する能力を身に付けている。 ☒ 2. 看護活動に関する最新の知見や動向に関する理解と看護活動における俯瞰的なものの見方や実践的な応用能力を身に付けている。 ☒ 3. 看護の対象の特性や看護の場面に応じた現象を科学的に探究し、臨床教育・継続教育で実践するための高度な専門知識と応用能力を身に付けている。 ☐ 4. 看護実践の改善・開発に必要となる研究マインドと、医療看護を対象とする看護研究の遂行能力を身に付けている。								
【授業時間外の学習】 (事前・事後学習)	自身の専門領域における課題に関する事例のプレゼンテーション準備と、毎回の講義内容をリンクさせながら学習を進めてほしい。専門用語を適切に使用して、論理的に論じられるよう、参考文献等で準備をすること。								
【課題に対するフィードバック】	レポートにコメントをつけて返却する。両親学級の実践は実施後のディスカッション時にコメントする。								
【評価方法】	レポート30%、プレゼンテーション 50%、授業中の発言、ディスカッション時の積極性など20%								
【教科書】	講義の中で適宜、資料を紹介・配布する。								
【参考図書】	1. 片田範子編集, こどもセルフケア看護理論, 医学書院, 2019. 2. アファフ イブラヒム メレイス監修, 移行理論と看護—実践, 研究, 教育, 学研プラス, 2019. 3. サトウタツヤ編集, 質的研究法マッピング (ワードマップ), 新曜社, 2019. 4. ルヴァ・ルービン著, ルヴァ・ルービン母性論—母性の主観的体験, 医学書院, 1997. 5. 吉沢豊予子編集, 女性生涯看護学—リプロダクティブヘルスとジェンダーの視点から, 真興交易(株) 医学出版部, 2004. 6. 相馬直子, 山下順子, ひとりではやらない 育児・介護のダブルケア, ポプラ社, 2020. 7. 毎日新聞取材班, ヤングケアラー 介護する子どもたち, 毎日新聞出版, 2021. 8. 松岡真里 (著), 小児看護と看護倫理 日常的な臨床場面での倫理的看護実践, へるす出版, 2020.								

【授業計画】

回数	担当教員	授業内容	事前学習	事後学習
1 ・ 2	飯野英親	ユニット1：オリエンテーション、少子化の現状と小児を取り巻く社会的・福祉的・医療的諸問題の概要 G I O：本科目の進行について理解し、事前学習・事後学習を効果的に進める方法について理解できる。我が国における少子化の現状と、子どもの生活環境の変化、子どもをめぐる社会的・福祉的・医療的諸問題と看護との接点について理解を深める。 S B O s： 1) 日本における少子化の現状と、近未来における15歳未満の人口動態予測について説明できる。 2) 自己の育児体験、社会的ニュース情報、臨床経験、論文解説等に基づいて、子どもの社会的・福祉的・医療的諸問題の概要と看護との接点について説明できる。 (方法：講義、グループワーク、討論)	授業で取り上げるテーマに即して、文献等を読み、討議できるように疑問点をまとめておく。	授業内容を振り返り、リアクションペーパーにまとめる。
3 ・ 4	青野広子	ユニット2：小児看護実践における倫理に関する法律・条約・倫理規範 G I O：小児看護実践に必要な倫理に関する法律・条約・倫理規範について理解を深める。 S B O s： 1) 小児看護実践に必要な倫理に関する法律・条約・倫理規範の概要について説明できる。 2) 小児看護における倫理的課題について調べて、資料にまとめることができる。 3) 自己の知識や臨床看護経験、文献等の情報から、小児看護実践に必要な倫理的課題について説明できる。 (方法：資料と文献精読、グループワーク、討論、発表)	倫理に関する法律・条約・倫理規範について調べ資料にまとめる。討議できるように疑問点をまとめておく。	リアクションペーパーにまとめる。
5 ・ 6	青野広子	ユニット3：出生前診断が両親の意思決定に与える影響に関する研究方法 G I O：報告された論文をもとに、出生前診断が両親の意思決定に与える影響における量的研究・質的研究手法について理解を深めることができる。 S B O s： 1) 出生前診断が両親の意思決定に与える影響に関する量的研究論文をクリティークし、研究手法等、改善できる点について討論できる。 2) 出生前診断が両親の意思決定に与える影響における質的研究論文をクリティークし、研究手法等、改善できる点について討論できる。 (方法：グループワーク、討論、発表)	授業で取り上げるテーマに即して、文献等を読み、討議できるように疑問点をまとめておく。	授業内容を振り返り、リアクションペーパーにまとめる。
7 ・ 8	青野広子	ユニット4：出生前診断と親子関係 G I O：出生前診断が親子関係に及ぼす影響を多角的に考察できる。 S B O s： 1) アタッチメント理論をもとに親子関係の理解を深める。 2) 出生前診断に関する倫理を親子関係の視点から説明できる。 3) 出生前診断時、および、出生後の親子の関係性について文献をもとに説明し、討論できる。 (方法：グループワーク、討論、発表)	授業で取り上げるテーマに即して、成書、文献等を読み、討議できるように疑問点をまとめておく。	授業内容を振り返り、リアクションペーパーにまとめる。
9 ・ 10	飯野英親	ユニット5：出生前診断が両親の意思決定に与える影響と家族アセスメントのための家族へのインタビュー法 G I O：家族に対するインタビュー技法、倫理的配慮、実施前の準備・事前確認と留意点について理解できる。 S B O s：家族に対するインタビュー技法、倫理的配慮、実施前の準備と留意点について討論し、レポートにまとめることができる。 (方法：グループワーク、討論、発表)	授業で取り上げるテーマに即して、成書、文献等を読み、討議できるように疑問点をまとめておく。	授業内容を振り返り、リアクションペーパーにまとめる。

回数	担当教員	授業内容	事前学習	事後学習
11・12・13	飯野英親	ユニット6：子どもと家族への援助方法と実践の分析：先天異常（ブラダーウィリー症候群）を有する子どもと家族の事例検討 G I O：先天異常（ブラダーウィリー症候群）を有する子どもと家族の事例検討を行い、子どもや家族の養育支援、トランジション、成人期医療に関連する看護的課題を見出しその課題に関する最新研究について理解できる。 S B O s： 1）先天異常（ブラダーウィリー症候群）を有する子どもと家族の事例について討論し、子どもや家族の養育支援、トランジション、成人期医療に関連する看護的課題を見出し、発表できる。 2）その看護的課題に関する最新の研究動向について調べ、発表できる。 （方法：グループワーク、討論、発表）	授業で取り上げるテーマに即して、成書、文献等を読み、討議できるように疑問点をまとめておく。	授業内容を振り返り、リアクションペーパーにまとめる。
14・15	飯野英親	ユニット7：先天異常や染色体異常などによる健康障害をもつ子どもとその家族への看護支援、まとめ G I O：先天異常や染色体異常の子どもと家族への研究について、自己の興味のあるテーマに関して、研究の動向と課題を整理し、概略を理解する。 S B O s： 1）先天異常や染色体異常に関する小児看護領域の研究動向を調べ資料にまとめることができる。 2）研究動向を調べその結果を説明できる。 3）これまでの授業内容を振り返り、自身が興味を抱く研究内容と学修内容の接点について説明できる。 （方法：資料と文献精読、グループワーク、討論、発表）	自己が選択した研究テーマに即して、文献等を読み、討議できるように予測に要点をまとめておく。	授業内容を振り返り、リアクションペーパーにまとめる。
16・17	田出美紀	ユニット8：母性看護における倫理（生命倫理 他）・倫理規範 G I O：母性看護において考察すべき生命倫理について理解を深める。 S B O s： 1）生命倫理、プロチョイス・プロライフについて課題と現状を明らかにし、説明できる。 2）母性看護における倫理的課題について調べ、説明できる。 （方法：文献検討、討論、発表）	倫理に関する法律・条約・倫理規範について調べ資料にまとめる。討議できるように疑問点をまとめておく。	リアクションペーパーにまとめる。
18・19	田出美紀	ユニット9：セクシャリティとアイデンティティ G I O：セクシャリティとアイデンティティの現状と課題について理解を深める。 S B O s： 1）セクシャリティに関する機序と多様化について理解できる。 2）性同一性障害に関する理解と課題、支援方法について理解を深める。 （方法：文献検討、討論、発表）	性同一性障害に関する診断方法、サポートの現状を調査し、課題を抽出できる。	リアクションペーパーにまとめる。
20・21	田出美紀	ユニット10：リプロダクティブヘルス G I O：リプロダクティブヘルスに関する研究の動向と課題を整理し、概略を理解する。 S B O s： 1）世界におけるリプロダクティブの変遷と現状を理解できる 2）リプロダクティブヘルスとプレコンセプションケアの関連について理解できる。 3）リプロダクティブヘルスに関する興味がある先行研究を検索し、クリティークする。 （方法：文献検討、討論、発表）	女性のライフサイクルとリプロダクティブヘルスの視点から、提示された各ライフステージにおけるヘルスニーズと健康課題を調べる。	リアクションペーパーにまとめる。

回数	担当教員	授業内容	事前学習	事後学習
22・23	田出美紀	ユニット11：母親のケア負担と母子のwell-being G I O：母親のケア負担が母子のwell-beingに及ぼす影響を理解し、課題と支援の方向性を考察できる。 S B O s： 1) 育児・介護のダブルケアおよびヤングケアラーの概念と背景を説明できる。 2) 母親のケア負担が母子双方のwell-beingに及ぼす影響を説明できる。 3) 母子のwell-being向上に向けた支援のあり方を考察できる。 (方法：文献検討、グループワーク、討論、発表)	ダブルケアおよびヤングケアラーの概念と背景について調べ、母子のwell-being向上に向けた支援について討論できるように準備しておく。	リアクションペーパーにまとめる。
24・25	田出美紀	ユニット12：女性のライフサイクルと口腔ケア G I O：女性のライフサイクル各期における心身の変化と口腔の健康との関連を理解し、口腔ケアの重要性と支援のあり方を説明できるようにする。 S B O s： 1) 女性のライフサイクル（思春期・成熟期・妊産褥期・更年期・老年期）におけるホルモン変化と口腔内環境の特徴を説明できる。 2) 妊娠・出産期における口腔内トラブルと母子への影響を説明できる。 3) 母子および女性のwell-beingを高める口腔ケア支援のあり方を考察できる。 (方法：文献検討、グループワーク、討論、発表)	女性のライフサイクルにおける口腔ケアについて調べる。	思春期や妊娠前の対象および妊婦・産婦・褥婦や胎児・新生児・家族を含めた口腔ケアの必要性についてレポートする。
26・27・28・29・30	田出美紀	ユニット13：両親学級での妊産褥婦とその家族への支援 G I O：両親学級を通じた妊産褥婦およびその家族への支援について理解し、母子および家族のwell-beingを高める支援のあり方を考察できる。 S B O s： 1) 両親学級の目的・役割・対象を説明できる。 2) 妊娠・出産が家族関係や役割に与える影響を説明できる。 3) 妊産褥婦と家族のwell-beingを支えるための関わりを説明できる。 4) 両親学級での支援を実践できる。 5) よりよい両親学級の支援のあり方を考察できる。 (方法：両親学級準備・指導実施・討論)	両親学級の目的や役割について調べ、妊産褥婦と家族のwell-beingを支えるための関わりについて整理する。	実際に両親学級に参加して支援し、よりよい両親学級の支援のあり方についてレポートする。

科目名	公衆衛生看護特論（MN013206）					時間数	60 時間		
学年	1	科目区分	選択	単位数	4	授業形態	講義	開講期	通年
評価責任者	吉田大悟								
担当教員名	吉田大悟								
【授業の概要】	地域における公衆衛生看護活動の展開方法と様々な健康レベルを持つ対象者への支援及びQOLの向上を図るための理論と方法についての知識を深める。また、地域住民を対象とした疫学研究の実際とそのエビデンスについて学び、地域住民の生活習慣病予防や健康増進のための効果的な支援方法や地域ケアシステムの開発、及び健康施策の立案について考察する。								
【到達目標】	1. 地域住民を対象に生活習慣病の危険因子・防御因子について検討した疫学研究のエビデンスを理解し、その意味と地域社会での活用について考察する。 2. 地域における健康づくりを推進するための健康政策の取組みについて、その内容について理解し考察する。								
【授業の方法】	講義を中心にディスカッション・発表・レポート提出を行う。								
【ディプロマ・ポリシーとの関連】 □に✓する ※複数選択可	☒ 1. well-beingを基盤にした健康支援と口腔に対する看護実践の質的向上に貢献するケアを提案・推進する能力を身に付けている。 ☒ 2. 看護活動に関する最新の知見や動向に関する理解と看護活動における俯瞰的なものの見方や実践的な応用能力を身に付けている。 ☒ 3. 看護の対象の特性や看護の場面に応じた現象を科学的に探究し、臨床教育・継続教育で実践するための高度な専門知識と応用能力を身に付けている。 ☐ 4. 看護実践の改善・開発に必要な研究マインドと、医療看護を対象とする看護研究の遂行能力を身に付けている。								
【授業時間外の学習】 （事前・事後学習）	公衆衛生看護の役割について毎回の講義内容をリンクさせながら学習を進める。講義で使用する論文や参考文献等には事前に目を通しておく。								
【課題に対するフィードバック】	レポートにコメントをつけて返却する。								
【評価方法】	レポート30%、プレゼンテーション50%、授業中の発言、ディスカッション時の積極性など20%								
【教科書】	適宜、文献、資料等を提示する。								
【参考図書】	1. 健康格差対策の進め方:効果をもたらす5つの視点, 近藤尚紀, 医学書院. 2. 金川勝子・早川和生監訳, コミュニティアズパートナー, 医学書院. 3. 保健師活動指針活用ガイド, 日本看護協会. 4. 地域包括ケアの推進に向けたまちづくり支援ガイド, 日本医療研究開発機構.								

【授業計画】

回数	担当教員	授業内容	事前学習	事後学習
1 ・ 2 ・ 3 ・ 4 ・ 5	吉田大悟	ユニット1：健康問題に対する疫学研究と公衆衛生看護 G I O：我が国の現在の疾病構造と健康問題に対する疫学研究と公衆衛生看護について理解を深める。 S B O s： 1. 我が国の疫学研究の歴史的変遷、疫学研究の成果について、日常生活動作障害リスクの関連と予防の重要性の視点から理解する。 2. 心血管病、高血圧、糖尿病に関する疫学研究の文献を熟読し、研究成果とその意義、公衆衛生看護活動の実践にどのように活用するか討議の中で意見を述べることができる。 (方法：講義、討議)	テーマに即した資料、文献を読み、討論できるように意見をまとめておく。	リアクションペーパーにまとめる。
6 ・ 7 ・ 8 ・ 9 ・ 10	吉田大悟	ユニット2：認知症や介護に関する疫学研究の成果 G I O：我が国が抱える高齢者の健康問題である認知症や介護に関する疫学研究の成果について理解を深める。 S B O s： 1. 認知症に関する疫学研究の文献を熟読し、研究成果とその意義について説明することができる。 2. 介護予防に関する疫学研究の文献を熟読し、研究成果とその意義について説明することができる。 3. 認知症や介護予防に関する疫学研究の成果を公衆衛生看護活動の実践にどのように活用するか意見を述べることができる。 (方法：講義、討議)	テーマに即した資料、文献を読み、討論できるように意見をまとめておく。	リアクションペーパーにまとめる。
11 ・ 12 ・ 13 ・ 14 ・ 15	吉田大悟	ユニット3：官学共同で行う住民健診と疾病予防 G I O：官学共同で行う住民健診や疾病予防などの支援方法について理解を深める。 S B O s： 1. 官学共同での住民健診の実践について文献を熟読し、その意義について意見を述べることができる。 2. 官学共同での健康支援の実践について文献を熟読し、その意義について意見を述べることができる。 3. 官学共同での健康支援方法について、架空の地域または自身の実践への応用について意見を述べることができる。 (方法：討議)	テーマに即した資料、文献を読み、討論できるように意見をまとめておく。	リアクションペーパーにまとめる。
16 ・ 17 ・ 18 ・ 19 ・ 20	吉田大悟	ユニット4：疫学研究の成果とICT保健指導 G I O：疫学研究の成果を基にした健康支援方法の実践について実際の保健指導例を通して理解を深める。 S B O s： 1. 疫学研究のエビデンスを基に産官学の連携で開発されたICTツール（疾患発症予測システム）を活用した保健指導とに関する文献を熟読し、その概要と開発意義について説明することができる。 2. 将来の疾病発症予測が可能なICTツールを架空の地域または自身の実践へどのように応用するか意見を述べることができる。 (方法：講義、討議)	テーマに即した資料、文献を読み、討論できるように意見をまとめておく。	レポートにまとめる。

回数	担当教員	授業内容	事前学習	事後学習
21 ・ 22 ・ 23	吉田大悟	ユニット5：地域における保健師の保健活動 G I O：地域における保健師の保健活動の推進に向けて医療・介護・福祉政策の動向を踏まえて理解を深める。 S B O s： 1) 地域における保健師の生活者の視点に立った保健活動について保健師活動指針を基に説明できる。 2) 地域診断に基づくP D C A サイクルの実施と事業・施策評価について生活者の視点に沿って事例を通して説明できる。 (方法：講義・討議)	テーマに即した資料、文献を読み、討論できるように意見をまとめておく。	リアクションペーパーにまとめる。
24 ・ 25 ・ 26	吉田大悟	ユニット6：公衆衛生看護活動の展開 G I O：公衆衛生看護の実践活動の中でも、地域特性に応じた健康なまちづくりの活動を推進する方法について理解を深める。 S B O s： 対人支援活動、地域支援活動の展開、事業化、施策化のための活動を推進するための方策について事例を通してディスカッションの中で説明できる。 (方法：講義・討議)	テーマに即した資料、文献を読み、討論できるように意見をまとめておく。	リアクションペーパーにまとめる。
27 ・ 28	吉田大悟	ユニット7：公衆衛生看護と地域、住民の協働 G I O：公衆衛生看護と住民との協働について実践活動を通して理解する。 S B O s： 1) 個人、家族、集団、地域を対象とした活動について事例を通してディスカッションの中で意見を述べるができる。 2) 地域診断、地区活動、地域組織の理解と住民との協働について事例を通してディスカッションし、実践活動における課題について説明できる。 (方法：講義・抄読・討議)	テーマに即した資料、文献を読み、討論できるように意見をまとめておく。	リアクションペーパーにまとめる。
29 ・ 30	吉田大悟	ユニット8：公衆衛生看護活動の実践と課題解決に向けた取り組み G I O：公衆衛生看護活動の中で地域住民全体を支える実践計画を立案し、今後の保健師活動の課題を解決する方法について検討する。 S B O s： 1) 地域住民全体を支える公衆衛生看護活動について、提示された事例を基に計画立案し説明できる。 2) 公衆衛生看護における地域づくり、社会保障制度、地域共生社会について、社会格差、健康格差といった課題を基にディスカッションし、これからの公衆衛生看護における課題解決に向けての意見を述べるができる。 (方法：講義・抄読・討議)	課題資料、テキスト・論文を読む。	レポートにまとめる。

科目名（科目NO.）	看護特別研究（MN031305）					時間数	150時間		
学年	1・2	科目区分	必修	単位数	10	授業形態	演習	開講期	通年
評価責任者									
担当教員名	檗木晶子、飯野英親、晴佐久悟、荒川満枝、山下（青木）久恵、秋好久美子、松尾和枝、内田莊平、岩本利恵、田出美紀、宮園真美、吉田大悟、門司真由美、青野広子、原やよい								
【授業の概要】	学生一人ひとりの研究計画に対応する個別指導を中心として、修士の学位に相応しいレベルの論文作成を行うことができるよう研究指導を行う。具体的には、自己の研究課題の設定にはじまり、研究計画の立案・調査・分析から論文の作成、研究成果の発表へと結び付けていくことにより、基礎的な研究能力が修得できるように指導する。 【基礎看護分野】 （山下（青木）久恵） 認知心理学の知見に基づいた看護教育に関する研究、および口腔アセスメントから口腔機能の向上に向けた口腔ケアに関する研究指導を行う。 （晴佐久悟） 口腔機能の低下と食欲・体力低下との関係及び器質的口腔ケアと機能的口腔ケアによるオーラルフレイル予防効果や誤嚥性肺炎をはじめとする口腔内細菌による感染予防について研究指導を行う。 （秋好久美子） 学童が心臓、血圧のメカニズムや口腔ケアと循環器疾患の関連について遊びながら学び、疾病予防の概念を身につける教育プログラムの開発について研究指導を行う。 （荒川満枝） 感染対策に関する医療関連施設の状況把握や対策の効果、地域や事業所等の感染症対策や感染防止教育などの感染管理について研究指導を行う。 （松尾和枝） 看護基礎教育および継続教育の場における看護教育方法や人材育成、患者への教育的支援に関する研究指導を行う。 （門司真由美） 看護教育における口腔のアセスメントやケアに関する研究、および色彩を含めた療養環境に関する研究指導を行う。 【母性看護分野】 （田出美紀） 夫婦のコミュニケーションスタイル、周産期の抑うつに対する看護援助の方法、母性・助産学教育システム開発について研究指導を行う。 【小児看護分野】 （飯野英親） 染色体異常など遺伝性疾患児、障がい児、小児慢性疾患児への看護アプローチと家族支援の方法について研究指導を行う。 （青野広子） 親子関係の構築と安定に関連した看護、および、慢性状態にある子どもと家族を対象とした看護について研究指導を行う。 【慢性期看護分野】 （岩本利恵） 慢性疾患や難病を抱える患者における患者力を高める患者中心のシミュレーション教育、多職種連携教育について研究指導を行う。 （檗木晶子） 循環器疾患患者の看護や口腔ケアにおける心身のアセスメント及び、循環器疾患憎悪因子の評価と病態生理について研究指導を行う。 【急性期看護分野】 （内田莊平） 周術期および周麻酔期に関連する有害事象のリスクと予防的看護援助方法（医療安全、感染管理、ME機器管理、創傷管理、滅菌管理他）について研究指導を行う。 【高齢者看護分野】 （宮園真美） 地域療養者を対象とした看護および口腔ケアや温熱刺激に関連した看護に関する研究指導を行う。 【精神看護分野】 （原やよい） 精神疾患患者を対象とした看護および口腔ケアや療養環境に関連した看護に関する研究指導を行う。 【公衆衛生看護分野】 （吉田大悟） 地域住民における健康課題および生活習慣病の実態とその関連因子の解明について研究指導を行う。								

【到達目標】	1. 問題意識や関心のある現象に関し系統的な文献レビュー等を行い、その現象についての知識や経験を整理し、研究課題を明確化することができる。 2. 研究課題に合った研究デザインを組み、系統的で論理的な方法を用い研究を進めることができる。 3. 図表等を用い、研究結果をわかりやすく記述することができる。 4. 研究データを適切に読み取ったり解釈できる。 5. 研究結果の意味や意義について、得られたデータや先行研究との比較等を通して論理的に考察し、結論に結びつける。 6. 研究の限界や課題を述べることができる。 7. 研究における倫理的な問題について理解し、適切な配慮ができる。 8. 研究論文を明快かつ論理的に記述し、作成できる。 9. 研究成果の概要を簡潔にまとめて、発表できる。
【授業の方法】	研究課題の設定から修士論文作成に至るまでの以下の研究活動の局面において、指導教員が定期的にグループまたは個別に指導する。 また、学生相互の討論の場、現場研修等、論文の質的向上がはかれるような機会を設ける。
【ディプロマ・ポリシーとの関連】 □に✓する ※複数選択可	☐ 1. well-being を基盤にした健康支援と口腔に対する看護実践の質的向上に貢献するケアを提案・推進する能力を身に付けている。 ☐ 2. 看護活動に関する最新の知見や動向に関する理解と看護活動における俯瞰的なものの見方や実践的な応用能力を身に付けている。 ☒ 3. 看護の対象の特性や看護の場面に応じた現象を科学的に探究し、臨床教育・継続教育で実践するための高度な専門知識と応用能力を身に付けている。 ☒ 4. 看護実践の改善・開発に必要な研究マインドと、医療看護を対象とする看護研究の遂行能力を身に付けている。
【授業時間外の学習】 (事前・事後学習)	研究の在り方、研究者としての倫理、看護学研究の理論と実際を理解し、研究活動を行う。担当教員の指導を受け、研究計画に沿って主体的に実施する。 研究指導時間は120時間（8単位科目）、事前事後学習は240時間以上。
【課題に対するフィードバック】	個別な課題が多いため、個人にフィードバックする。 中間発表会での成果を個別にフィードバックする。 最終学年では、作成した修士論文について、複数の研究指導教員による論文審査、および、口頭試問による最終試験を課す。
【評価方法】	研究計画立案10%、学位論文発表会10%、最終試験（口頭試問）20%、修士論文60%の割合により評価を行う。
【教科書】	必要時に提示する。
【参考図書】	1 D.F. ポーリット他、看護研究 原理と方法 第2版、医学書院、2012. 2 古谷野宣他、実証研究の手引き 調査と実験の進め方・まとめ方、(株) ワールドプランニング、2000など。 その他、適宜、紹介する。

【授業計画】

回数	担当教員	授業内容	事前学習	事後学習
1 ～ 6		ユニット： G I O：問題意識から文献レビューを進めながら研究テーマを絞り込む	関連論文の収集と精読	関連論文のまとめ
7 ～ 11		ユニット： G I O：研究計画の立案と研究倫理申請の準備	研究倫理申請書の準備	研究倫理申請書の作成
12 ～ 15		ユニット： G I O：調査用紙作成・インタビュー訓練等のデータ収集の事前準備	研究デザインに合わせたデータ収集法の学習	
16 ～ 20		ユニット： G I O：データ収集の依頼とデータ整理	データ収集の依頼先の候補リストを作成	データ整理
21 ～ 28		ユニット： G I O：データ整理と結果のまとめ案の作成	結果のまとめ方	図表の作成 結果のまとめ案の作成
29 ～ 33		ユニット： G I O：データ分析計画の立案とデータ分析	研究デザインに合わせたデータ分析方法	データ分析と検証
34 ～ 42		ユニット： G I O：分析結果の解釈と既報論文との比較検討	既報論文と結果の比較検討	既報論文と結果の比較検討
43 ～ 48		ユニット： G I O：考察のストーリー、結論の予想	考察と新規性・独創性の検討	結論の作成
49 ～ 60		ユニット： G I O：論文執筆・口頭試問・論文発表会	修士論文規定に沿った論文の書き方	論文執筆